

洋画を活用したリスニング活動¹⁾

小林 敏彦

ABSTRACT

本稿は、大学の一般英語の授業における実践を通じて構築された洋画を活用した英語のリスニング活動の手法を紹介するものである。映像を使用したリスニング活動は、オーディオテープを使用した場合と比較して、近年普及したクローズド・キャプション・システムの恩恵により、その提示法も豊富で、実に多彩な活動が可能となっている。本稿では、まずは、洋画を活用したリスニング活動の準備段階として、作品の選定、提示シーンの選定、提示時間の選定、提示方法の選定について詳細な説明を行う。また、リスニング活動の実践の段階では、さまざまな指導法の体系化を試み、全体提示と部分提示に大別、リスニング活動の本質を内容理解と音声認識に分ける。さらに、タスクを細分化し、リスニング活動のための言語資料の提示法について解説し、ハンドアウトを例示しながら授業計画の具体的な方策をここに提案する。最後に、著者が日々実践している翻訳や英作文の要素を加えたりリスニング活動の統合モデルを紹介する。

1. INTRODUCTION

洋画は妥協なき生の英語であり、作品という性質上現実の英語と異なる点が多少あるものの一般学習者にとってはもっとも身近な英語媒体のひとつであり、娯楽のひとつである。また、字幕なしで洋画を鑑賞できることが多くの英語学習者の願望であり、達成目標でもある。あらゆる英語媒体の中で、娯楽に次いで聞き取りが困難であるが、この壁を乗り越ればたいいの日常会話は理解可能になり、英語ニュースや放送の理解も容易に感じるだろう。しかし、リスニングは単なる語彙・統語の知識や耳の良さだけではなく、多彩な要素が結集される技能である。(Appendix I 及び II を参照)

洋画での発話行為は、基本的に母語話者が他の母語話者に話しかける本物

の英語であり、フォーレナー・トーク²⁾の余地はない。洋画は、教材テープにはない多くのオーセンティックな側面を持っている。音声的には、音の欠落や連結、語彙的には、学校では習わない俗語や卑語などを含む日常語をコンテキストと共に覚えるには格好の学習教材である。洋画は、異文化を紹介するための視覚教材として、特定の場面の提示により学習対象の紹介、比較、裏付け、強化などを可能にしてくれる。

洋画活用の意義は、目標言語の母語話者の発話に音声的、語彙的、統語的、語用的に近似した言語材料が学習者に提示できる点と映像が伴うことでコンテキストの把握が容易になり理解度が高まる点である。前者の価値は、オーディオ教材でも見出せるものであるが、後者は視覚教材の最大の特長である。

学習の対象となる言語材料が現実のものであればすべてよいというわけではなく、公共の教室内での授業中に提示するにあたっては注意が必要である。新田(1994)は、洋画の英語は「本物の英語」だが「現実の英語」とは限らないとして6つの理由を提示している。第1に、洋画には現実の場面で不必要と思われるような物語の設定を含め観客に教える説明台詞が存在する。第2に、洋画には上映時間の制限から、実社会で存在する「無駄な会話」「要点の見えない会話」がない。第3に、専門用語は専門的な匂いが残る程度に制限し、後はすべて観客がわかるレベルに落としている。第4に、台詞は登場人物の口から自然に出たものではなく、物語を進展させるように計算されている。第5に、日常生活では使わないような芝居がかった台詞、大きさ台詞になりがちである。第6に、俗語や卑語が軽い気持ちで使い、軽く流す場面が半数以上だが、それは脚本家が考えた俳優の反応であって実社会では同じであるとは限らない。「本物」と「現実」の言葉の差異については説明されていないので不明瞭であるが、洋画の英語に人工的な側面があることは否めない。しかし、こうした難点はあるにせよ、それは洋画から得られる教育的効用から考えると微々たるものであり、使用をやめるような根拠にはならない。単に、以上の指摘の1項目でもあてはまるシーンを使用しなければ済むことである。1作品に含まれる場面数や台詞の量は莫大で材料に不足はないが、「現

実の英語」を選抜する確かな判断力が教師には求められだろう。

吉成 (1997) は、洋画で使用されている語彙の特徴について、40本の洋画で使用されている35万4千語を頻度分析した結果、1000語から2000語ぐらいの種類の単語が使用されており、その約8割が中学校で学ぶ単語(文部省必修語彙600語に基本語彙400語を加えた)であると報告している。また紹介されている資料によると、CNN Newsでは72.3%、クリントン大統領就任演説では75.6%、The Japan Times 1面記事全文では61.9%であるという。

洋画は、作品のジャンル(genre)³⁾によっては、特定の分野についての知的好奇心を刺激し、また資料的価値がある娯楽の域を超えたものも少なくはない。金融を題材にした洋画作品は、経済や商学を専攻している学生にとって知的好奇心を引き起こしてくれるかも知れないし、難病や医学倫理を扱った作品は医学生に好ましいだろう。洋画のジャンルは広いので、学習者は自分が興味ある分野を描いた作品を見出せるだろうし、娯楽性があり、スリル、驚き、恐怖、興奮などの感情を揺さぶる作品が多いので自分の感性にあった作品を選び長期的、生涯的なインプット媒体として付き合えるという特長がある。継続的に統合的動機づけ(integrative motivation)がされ学習効果が高められる。また、専攻分野が一致していない大人数のクラスでは受講生が皆興味を持っている分野を選ぶことは困難なため、異なる分野の作品を複数使用するなど工夫が必要である。

洋画を使用して授業を受講した学生などにアンケートを実施すると、それまで洋画に興味のなかった学生がビデオを借りてきて見るようになったり、字幕をなるべく見ないようにしたり、台詞を注意して聞くようになったなど、教室外での行動に影響を与えていることがわかる。EFLの環境下では、聴解力の向上には授業内のインプットだけでは絶対的に不足しているため、学習者の積極的、意識的インプットが不可欠であり、ビデオなどで洋画を鑑賞する意義は大きい。授業で刺激された学習者が自発的に教室外で目標言語のインプットを求めるような状況を生むことは教育の目標のひとつである。

2. APPROACH TO LISTENING ACTIVITIES THROUGH FILMS

2-1. 作品の選定

洋画作品の選定にあたっては教材として適正という教える側の視点だけではなく、飽きずに興味を持って見ていられる作品を学習者の側の視点も入れて選び出すことが大切である。

大学の一般の英語の授業で洋画を活用する場合、カリキュラムの形態（通年か半期制）によって作品の選定の仕方に違いが出てくる。また、毎時間同じ作品を使用するか、違う作品を使用するかによって違いが出る。同一作品を半期また通年で使用する場合は、選定者である教師の嗜好が左右することもあるが、受講生の専門分野と関連づけて ESP⁹⁾ の性質を帯びた授業にするには、専門と関連したジャンルの作品を選定することが考えられる。例えば、経済や商学を学ぶ学生が全員、または多数を占めるクラスでは、THE WALL STREET⁵⁾ などのような金融ドラマを選定することが考えられ、医学部の学生が対象のクラスでは、THE ELEPHANT MAN (1980)⁶⁾ や THE CURE⁷⁾ などの作品が使用され得る。このような同一の作品を長期間使用する利点は、まず第 1 に、専門との関連で組織だった語彙項目を学習者に提示できること。第 2 に、全編を使用することが可能なので場面間の関連がよくわかること。第 3 に、作品の背景、表現などについてより丁寧な説明をすることができる点である。しかしながら、難点として学習者が飽きてしまう可能性もある。

他方で、毎回作品を変えることも可能である。著者は通年の授業では、30 の作品を使用している。そこで注意しなければならないのは、ジャンルに偏りがないように選定することである。Table 1 は、平成 12 年度の小樽商科大学の 1 年生の英語の授業で使用した作品の一覧である。

Table 1 からわかるように、1～3 は SF、4～6 は乗っ取り、7～9 は軍事、10～12 は米国保安官、13～15 はテロリスト、16～18 はヒーロー、19～21 は歴史上の人物、22～24 は恋愛、25～27 はコメディ、28～30 は災害というように 3 週間で同一のジャンルの作品を 3 点使用した。ただし、一般的なジャン

TABLE 1 E 107 A のシラバスに掲載された使用作品一覧

1. E. T.	11. U.S. MARSHALS	21. BRAVEHEART
2. STAR WARS	12. ERASER	22. GHOST
3. INDEPENDENCE DAY	13. DIE HARD 2	23. LEON
4. AIR FORCE ONE	14. 007: Tomorrow Never Die	24. BEAUTY & BEAST
5. EXECUTIVE DECISION	15. MISSION: IMPOSSIBLE	25. BEAN
6. UNDER SIEGE 2	16. TERMINATOR 2	26. HOME ALONE
7. TOP GUN	17. BATMAN & ROBIN	27. BABE
8. G.I. JANE	18. ROCKEY 4	28. ARMAGEDDON
9. COURAGE UNDER FIRE	19. JFK	29. VOLCANO
10. THE FUGITIVE	20. THE LAST EMPEROR	30. TWISTER

ルの分類法としては半分近くがアクションに分類されるものであり、ドラマは少ない。それは、選定にあたり受講生の年齢を考えた結果、活力のある気分が高まるシーンを含んだ作品を選定したためである。このように毎回違う作品を使用すれば、同一の場合と違って作品に飽きるようなことはない反面、全編ではなく部分的使用になり、説明等においても深みがなくなる懸念がある。

2-2. 提示シーンの選定

作品の選定後は、作品のどの部分を使用するかという提示シーンの選定作業がある。もちろん、これとは反対にある特定のシーンを含んだ作品を選定する場合もある。例えば、仲直りするシーンなどは多くのジャンルの作品にあるのでジャンルを超えた選定ができる。小林(1999)は、洋画を使用する場合の場面選定について以下7点の基準を提案している。

- 1) 画像的、言語的に教育上適切なシーン
- 2) 盛り上がりのある面白いシーン
- 3) 聞き取りやすいシーン
- 4) 対話の多いシーン
- 5) 学習者が将来遭遇する可能性が高いシーン
- 6) 頻度の高い語彙項目や構文が使われているシーン
- 7) 教えたい、またシラバス上提示の時期が適切な言語材料が使われ

ているシーン

2-2-1. 画像的、言語的に教育上適切なシーン

極端に暴力的または差別、虐待、性的描写、罵声語、卑語などを含むシーンを避けるか、言語上の問題だけならば音声をカットするなどの考慮が必要である。洋画から入るインプットは画像が伴い非常に印象的であるため、記憶プロセスでの記銘が強く、four-letter word⁸⁾などを教室外で面白半分に学生が使用する危険がある。

2-2-2. 盛り上がりのある面白いシーン

盛り上がるシーンは、深く印象に残るため記憶の記銘が深くなるが、その定義は作品のジャンルによって異なるので注意が必要である。アクションなどでは、戦闘シーンや爆音が盛り上がるのシーンとなるが台詞は少なく、あっても聞き取りにくい。ドラマなどでは感動的なシーンであり、静寂が伴ったもので言葉も明確に聞こえるかも知れない。画像と記憶の定着を考慮するとやはり記憶に残りやすい印象深いシーンであり、かつリスニングのために聞き取りやすいシーンが望ましい。

2-2-3. 聞き取りやすいシーン

リスニング活動のために洋画を使用する場合は、明確で聞きやすいことは大切であるが、レベルに応じて時にはむしろ聞き取りが困難なシーンを選ぶことも考えられる。多くの教材は明瞭な発音で学習者のレベルを考慮したものであるが、オーセンティックな教材としての利点を活かすにはやはり現実の言語材料に近いものを提供することも大切である。それには、背景に爆音があったり、雑音がある場合だけではなく、感情が昂って発せられた台詞、怒鳴った台詞、泣きながらわめく台詞など、母語の世界で体験するあらゆる感情的な発話を含むシーンが望ましい。

2-2-4. 対話の多いシーン

リスニングの形態は、一般に独話 (monologue) と対話 (dialogue) に大別される。前者は、ナレーション、講義、講演、ニュース、放送など一方的にインプットされ、こちらからのフィードバックの余地が全くないシーン、後者は1名または数名の聞き手が存在し、話者と聞き手の間にインターラクションがあり、発話の調整が行われることがある。

現実の言語使用の場面においては、独話と対話の聞き取りの両方があるので、言語材料としては両方の形態のものを取り入れる必要がある。しかし、画像という洋画の最大の利点を活かすには、オーディオ教材でも済む比較的視覚的な教育効果が低い独話よりも目線や社会的距離など非言語コミュニケーション上学ぶべき要素の多い対話を積極的に活用すべきである。

2-2-5. 学習者が将来遭遇する可能性が高いシーン

将来学習者が遭遇したり使用する可能性の高い場面や機能を含むシーンを選ぶべきである。場面的には、あまりSFやホラーで見られる非現実的なシーンよりも、買い物、交渉、情報交換、人間的触れ合いなど、現実的な使用シーンが望ましい。映画のシーンは多彩であり、学習者のニーズに応じたシーンがどこかにはあるはずである。必要な時に探すのではなく、普段からメモしておくことも大切である。機能的には、質疑応答、挨拶、問題と解決、報告と受領、要求と承認、主張と同意または反論、謝罪と許容などのパターンの隣接ペアを含むシーンが望ましい。

2-2-6. 頻度の高い語彙項目や構文が使われているシーン

日常でよく使われる表現や構文が提示したシーンで頻出すると学習者は発話で使用しようとする意欲が湧くであろう。大学受験等で学習した型苦しい受験英語と思っていた語彙や構文が洋画の中の台詞で確認できただけでも学習者は安心する。また、著者の授業では、日常生活での頻度の高い表現集をテキスト⁹⁾として使用しており、使用場面と掲載語彙との間に有機的結合が

計られるように工夫されている。

2-2-7. 教えたい、またシラバス上提示の時期が適切な言語材料が使われているシーン

教材の中心が洋画ではなく、洋画が補助教材して部分的に使用された場合もある。例えば、内村(1994)は、著書の中で中学で学習する“as A as B”というパターンについて、「スター・ウォーズ：ジェダイの復讐」から“The Emperor is not as forgiving as I am.”を紹介している。このように、あらゆる文法構造は現実の使用場面に非常に近い洋画の台詞の中に存在し、部分的にもそれを提示することで学習者に強烈な印象を映像とコンテスクと共に与えられる。

2-3. 提示時間の選定

洋画作品1本の本編の長さはおおむね2時間である。学習者にとって2時間の間に受ける目標言語のインプット量は莫大であり、字幕なしでは理解不能の部分が大半を閉めることは明らかである。作品の全編は、90分の大学の講義中に全編を見せるには長過ぎる。そのため、何回かに分けて提示するか、特定の短いシーンを見せるの一般的である。ただし、ディズニー制作のアニメ映画の中には90分を切るものがあり、ぎりぎり1講義時間に収まる作品もある。

2-4. 提示方法の選定

画面に表れる字幕(英文キャプションを含めて)の取り扱いを基準に考えると、以下9つの提示方法が考えられる。

- 1) 画像なし音声あり
- 2) 字幕なし画像あり音声なし
- 3) 字幕なし画像あり音声あり
- 4) 日本語字幕付き画像あり音声なし

- 5) 日本語字幕付き画像あり音声あり
- 6) 英語字幕付き画像あり音声なし
- 7) 英語字幕付き画像あり音声あり
- 8) 日本語・英語字幕付き画像あり音声あり
- 9) キーワード字幕

2-4-1. 画像なし音声あり

一般に、画像はリスニングの手助けをしてくれるものと考えられるが、同時に画像に気を取られ内容把握が疎かになる危惧もある。近年の SFX (特殊効果) を使用した洋画作品などは視覚だけで十分鑑賞した気になってしまう。我々の五感は、それぞれの瞬間に鋭敏になっているものと鈍感になっているものがある。ゆえに、シーンの特徴に応じて画像をカットした方が適切と判断できる場合があり得るのである。

聴覚に全神経を集中され内容理解に努めさせるだけが、画像をカットする理由ではない。後に述べるあらかじめリストアップした語彙項目の認識のタスクでは、学習者は配付されたハンドアウトにチェックを入れる。この時どうしても目が画面とハンドアウトの間を慌ただしく往復しなければならない。実際、著者のクラスでは映像の方に引き込まれてチェックしなくなる学生が目立ち、学期途中からまず画面なしで音声を聞かせる方法に切り替えた結果、ほぼ全員がハンドアウトを見るようになった^{けい}経緯がある。

2-4-2. 字幕なし画像あり音声なし

画像を見せる一方で音声を与えないのは、そのシーンで話されている内容や発話を想像させる場合によく使われる。怒っている男が何を叫んでいるのかなど、学習者の経験と照らし合わせ推測するタスク (task) を行わせる。また、あらかじめリストアップした語彙項目などがどの部分で誰が言っているのかを推測するタスクも可能である。これは口の動きから発話を読み取る読唇術のような高度な技術を要求または期待しているのではなく、コンテキストと発話を結び付けられるようにする練習である。

日本では、映画館で上映される洋画や市販されているビデオソフトには例外なく日本語の字幕が付いているため、教材として洋画を使用する場合に厄介な存在となることがある。字幕に釘付けになってしまい音声から内容を把握させるタスクができなくなってしまう。卓上に小型モニターが設置された教室では画面の下の方に何らかの覆いをすることができるが、ひとつの大画面を全員に見せるところではそうはいかない。そのため、米国で市販されている日本語字幕のないビデオソフトを現地で購入するかインターネットで注文し入手することが考えられるが、他にデコーダーをうまく調整する方法¹⁰⁾がある。

2-4-3. 字幕なし画像あり音声あり

これはまさに米国の映画館で洋画を見る時の状態である。のちに紹介するリスニング活動ではこの状態で提示することが基本となる。著者はゼミ¹¹⁾で時折この状態のビデオソフトを全編見せ、聞き取った語彙項目を書き取らせるタスクを行うが、日本語字幕の時と違い話の展開が理解できなくなる者が出てくる。しかし、同時に字幕に釘付けされて、いかに映像を見落としているか実感する者も少なくない。

全編を見せる際の提示方法として著者が基準としているのは、学生が何度も見ていると思われる人気作品については、この字幕なし画像あり音声ありの提示法とし、その反対にあまり知られていない作品は、日本語字幕を提示することになっている。

2-4-4. 日本語字幕付き画像あり音声なし

これは日本語を字幕を見てどのような英語が使われるかを予想してから音声付きの画像を見る場合に使える。台詞ごとに一時停止し日本語字幕をオリジナルの英語台詞を再生する和文英訳の演習が可能である。ただし、字幕の場合は、一般の和文英訳には行かず、小林(2000)が分析したように字幕の類型は多彩であり、正確さより明瞭性を追求する性質があるために適切

であるかどうかの判断は、洋画を活用した英語教育の実践者の判断に委ねられる。

2-4-5. 日本語字幕付き画像あり音声あり

日本の映画館での上映作品や市販・レンタルビデオソフトのもっとも一般的な形態である。字幕はタスクの内容によっては邪魔ものになるが、同時に全編を見せる場合には理解の手助けとなるものであり、興味を持続させてくれるものなので使い方が大切である。米国で公開された作品の全てが日本でビデオソフトとなり日本語字幕を付けられているわけではないので、字幕を入れる装置（キャプション・エンコーダー）を使用して教師が準備することも考えられる。

2-4-6. 英語字幕付き画像あり音声なし

学生に不明な語彙項目を辞書等で事前に調べさせ十分準備してから、また、台詞が実際どのように発話され、ストレス (stress) の位置やイントネーション (intonation) をあらかじめ予測させてから見せる場合に活用できる。

2-4-7. 英語字幕付き画像あり音声あり

これはリスニングを助長させる手段として音声を聞かせながら視覚的に確認させる時に使用する形態であるが、ずっと目を字幕に釘付けにさせ速読の訓練をさせることも可能である。また、不明の語彙項目を書き取らせたり、後述する特定語彙の書き取りタスクなどにも活用できる。

2-4-8. 日本語・英語字幕付き画像あり音声あり

ある一定のタスクの終了後に内容理解の確認のために台詞ごとに一時停止して解説するのに便利である。ところが、全編にこの提示法を適用すると日本語と英語の字幕で画面の大半が隠れてしまい不安感がつの上、激しい眼球疲労を起こすので注意が必要である。また、日英語の比較には格好の形態

であり、言語的比較に留まらず、文化比較にも発展し得るものである。

2-4-9. キーワード字幕

キーワード字幕は、役者が発話する台詞をクローズド・キャプションのように一字一句提示するのではなく、そのシーンの要となる重要語彙項目を選抜して提示する形態である。

菊池 (1998) は、高校生を対象に実験を行い、英語音声と英語字幕を同時に提示することは、情報処理上の負担が大きいとし、キーワードの提示にとどめることで、視覚の軽減の分が聴覚に向けられると主張している。キーワードを英語音声より早めに提示することで聞き手の内面に内容スキーマ (content schema) を形成させることができるという。

2-5. リスニング活動に求められる 5 原則

それぞれのタスクを紹介する前にリスニング活動を評価する上で忘れてはいけない Richards (1987) が体系化した基準について触れたい。同氏は、リスニング活動の善し悪しを評価するための 5 つの基準を示している (以後本稿では「Richards の 5 原則」と呼ぶ)。

TABLE 2 Richards の 5 原則

原則 1 : “Content validity” (内容の妥当性)
原則 2 : “Listening comprehension or memory” (聴解力なのか記憶力なのか)
原則 3 : “Purposefulness and transferability” (目的と移転性)
原則 4 : “Testing or teaching” (試験か指導か)
原則 5 : “Authenticity” (本物であるか)

原則 1 は、あるリスニング活動が本当に“listening comprehension” (聴解力) の練習になっているかという基準である。同氏は、従来のリスニング教材には、出来具合が聴解力よりも読解力や知能に影響される演習が多いことを指摘している。

原則 2 は、聴解力そのものよりも長期記憶 (long-term memory) に依存するものになってはならないという基準である。悪い例として、一定の長さの文章を聞かせた後の True or false (内容真偽判定) 形式のタスクの例をあげて以下のように述べている。

For example, a set of true/false questions following a passage on a tape might indicate how much of the material the learner can remember, but this kind of activity in no way helps the learner develop the ability to grasp main ideas or extract relevant details. (p.171)

この点については、今もなお多くの教材が改善に至っていないことがわかる。

原則 3 は、教室内の活動そのものが実際の生活の中にあるリスニングの場面の目的に合致したものであるかという基準である。例えば、テレビのニュースを教材に使用する場合、ニュースを聞く現実の世界での目的は情報の入手 (listening for information about events) であるのに、空欄穴埋めなどの演習をするのは、本来の活動の目的に合致していないことになる。今日のリスニング教材の中には、この基準をあてはめると不合格になるものが少なくなさそうである。

原則 4 は、リスニング活動が指導ではなく試験のようになってしまっていないかという基準である。試験のようにならないようにするには、pre-listening activities を充実させることが大切であり、その手法としてディスカッション、質疑応答、背景知識 (script) を高めるためにシーンや登場人物に関する情報が書かれた短い段落を読ませるなどのタスクを奨励している。また、さらに重要なのは、

Activities which teach rather than test may require much more use of pre-listening tasks and tasks completed as the student listens, than post-listening tasks. (p.172)

の一節の後半部分にあるように、リスニングをしながら完了する“complete while listening task” (p.174) を導入すべきであるという点である。すなわち、後述する内容に関する質疑応答や多義選択などの出来具合が、記憶力に依存しないように、前もって提示してから行うべきである。同氏は、この点について以下のように明確に解説している。

By posing the task before the students listen to the tape, the listeners are given a purpose for listening which forces them to focus on selected information. They can also compare information they hear with information they obtained from their pre-listening group discussions. (p.174)

同様に、Ur (1984) も pre-listening activities の重要性を以下のように述べている。

Heard discourse which corresponds closely to what the listener expects and needs to hear is far more likely to be accurately perceived and understood than that which is unexpected, irrelevant or unhelpful. Thus it would seem a good idea when presenting a listening passage in class to give the students some information about the content, situation and speaker (s) before they actually start listening. (p.4)

この点、実用英語検定 (STEP)、TOEFL や TOEIC などのリスニング問題の多くは旧態依然としており、post-listening の段階で導入されている。波及効果として、受験準備を進める学習者は、依然として記憶力に依存した練習を積まざるを得ない状況にある。

原則 5 は、インプットされる目標言語が自然なディスコースにどれくらい近いかという基準である。これについて Richards (1987) は以下のように主張している。

While much authentic discourse may be too disfluent or difficult to understand without contextual support, materials should aim for

relative authenticity if they are to prepare listeners for real listening. (p.172)

この点、洋画を教材に選ぶことは利にかなっていると思われる。前にも述べた洋画の英語は本物であっても現実とは限らないという指摘についても、この一節で“relative authenticity”と述べていることから認容できるものと考えられる。

同氏は以上の点を踏まえたモデルを提示しているが、簡潔にまとめると Table 3 にある手順となる（以下を「Richards のリスニングモデル」と呼ぶ）。

TABLE 3 Richards' Listening Model

STEP 1 : 内容の大筋を問う 2、3 の質問をリスニング活動前に口頭で提示する。
STEP 2 : 1 度テープを聞かせながら、質問の答えを用意させ、解答する。
STEP 3 : よく細部の情報を問う質問を多義選択式で提示する。
STEP 4 : 再度テープを聞かせながら質問の解答をさせ、解答する。
STEP 5 : 今度は、内容真偽判定の問題をいくつか提示する。
STEP 6 : 再度テープを聞かせながら質問の解答をさせ、解答する。
STEP 7 : 最後に語彙に関する解説を詳しく行う。

以下、本原稿では Richards の 5 原則、特に前出の“complete while listening task”を踏まえた洋画を活用したリスニング活動を紹介していく。

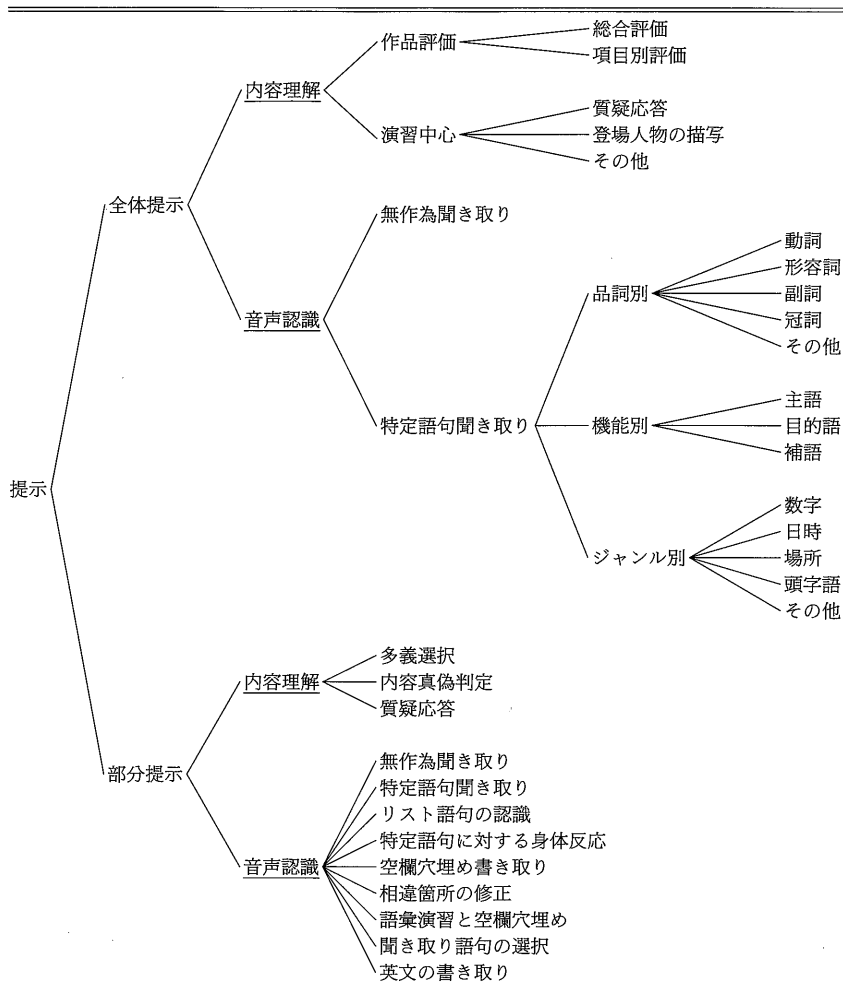
3. DESIGN FOR LISTENING ACTIVITIES THROUGH FILMS

洋画を活用したリスニング活動を体系化すると以下の Figure 1 のようになる。

3-1. 全体提示 (whole presentation)

一切の指示なく 2 時間程度ただ黙って作品全編を鑑賞させるだけでもある程度の学習の効果は期待できるかも知れないが、それは学習者の個人的な時間にでも可能である。教室という指導者や他の学習者が存在し交流できる利

FIGURE 1 洋画を活用したリスニング活動の体系



点を活かすには、なんらかのタスクを学習者に課すことが大切である。目的に応じて内容理解 (comprehension) のためのタスクと音声認識 (aural perception) のためのタスクに二分される。

3-1-1. 内容理解 (comprehension)

内容理解はリスニング活動の中心であり、ただ単に空欄穴埋め式の聞き取りなどの音声認識に終始していると、学習者は言語の記号だけの認識ばかり気にし、記号によってエンコードされた情報をデコードし理解するプロセスが疎かになる。後述する音声認識はあくまでの内容理解のためのプロセスであり、それ自体が学習の目的ではない。内容を理解するタスクは、作品批評と演習中心のタイプに分けられる。

3-1-1-1. 作品評価タスク (evaluation tasks)

3-1-1-1-1. 総合評価 (holistic evaluation)

全般的な作品の善し悪しを自由に論じる質的な評価である。全体評価は、日本語または英語でペア・ワークまたはグループ・ワークで論じさせたり、感想文や批評文を書かせるなどの post-viewing activities で行うことができる。

自由に論じさせると言っても、学期開始時には、ある程度の指示を与え、タスクの内容を明確にする必要がある。その場合は、Figure 2 にあるような質問を事前に伝えたり、ハンドアウトに記して配布することができる。また、うまく書けた文章をコピーし授業で配付し他の学生の参考にさせるのもよい。さらに、インターネット上の映画資料サイト (u.s. imdb. com/) で公開されている英語母語話者の作品コメントなどを授業中に提示し、批評文の特徴などを教えることも可能だ。

FIGURE 2 総合評価のための質問シート

-
- 1) What do you like about this film ?
 - 2) What do you dislike about this film ?
 - 3) Which scene impressed you most and least ?
 - 4) If you had a chance to act in this film, which role would you like to play ?
 - 5) If you could choose cast freely, who would you like to use in the film ?
 - 6) If you were the director, how would you improve this film ?
 - 7) What do you learn from this film ?
-

3-1-1-1-2. 項目別評価 (itemized evaluation)

項目別評価は、あらかじめ評価の基準となる項目を知らせておき、鑑賞中や鑑賞後に完成させる量的評価の形態である。Figure 3 は著者が実際に大学の授業で使用している洋画評価シートである。全体で10の項目からなり、各項目の内容に同意するか否かを度合いに応じて1から10までのスケールで選んでもらう。慣れないうちは何を基準に選べばよいのか戸惑うものだが、何本と鑑賞を重ねていくうちに既に見た作品の評価との比較を通じて判断の精度が高まっていくものと考えられる。これらの項目は細分化されているが作品を見る時に単に受動的に流されるのではなく、積極的な姿勢で鑑賞する習慣が身に付くことで集中力 (concentration) が高まりの結果として情報の取りこぼしが減り内容理解が高まるものと期待される。

3-1-1-2. 演習中心タスク (exercise-based tasks)

鑑賞中または鑑賞後に形態であり、タスクの内容と目的により作品の聞き方も変わってくる。ここでは以下2つのタスクを紹介するが、他にもさまざまな手法があるはずである。

3-1-1-2-1. 内容に関する質疑応答 (Q & A)

事前に話の筋 (plot) や展開に関する質問事項をシートにまとめ配布し、全編の鑑賞後に答え合わせする方法である。質問はあくまでも内容理解や話の展開の把握だけで解答可能なものにすべきである。言語に依存せずとも画像から一目瞭然であったり、一般知識から容易に推測できるものは不適切である。また、長期記憶に依存しないように鑑賞中に解答するように指示することが大切である。さらに、2時間の作品の一部に解答やヒントが集中しないように注意すべきである。

質問内容は、作品によってさまざまであるが、5W1Hの方式のものが中心となるだろう。また、多義選択形式にすることも可能である。Figure 4 は GHOST を全編見せた時に配布可能なタスクシートである。

FIGURE 3 洋画作品評価シート

How would you evaluate this movie ?

TITLE: _____ (year: _____)

DIRECTER: _____ PRODUCTION: _____

CAST: _____

YOUR NAME _____ (I. D.) DEP: E/C/L/M/T Year: F/S/J/S

1: As a whole, this movie is excellent.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
← strongly disagree					▲	strongly agree →				

2: This movie is lively.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

3: This movie is fun.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

4: This movie is well organized.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

5: This movie is informative.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

6: This movie is boring.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

7: This movie is too long.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

8: This movie is too complicated.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

9: I would like to see this movie again.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

10: I would like to meet the actors and actresses.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

*Catch words & phrases !***COMMENT**

FIGURE 4 洋画 GHOST の内容に関する質問シート

-
- 1) Who was killed ?
a) Carol b) Sam c) Molly d) Odamei
 - 2) Where was he killed ?
a) in the alley b) in the subway c) in the elevator d) in the room
 - 3) When was he killed ?
a) in the morning b) at noon c) at dusk d) at night
 - 4) How was he killed ?
a) stabbed b) shot c) choked d) hit
 - 5) What was the name of the killer ?
a) Odamei Brown b) Carol Lopes c) William Clark d) Bill Robinson
 - 6) Why was he killed ?
a) for honor b) for revenge c) for money d) for no reason
-

これらの質問は、すべて Sam の殺害に関する質問であり、殺害現場が作品の開始時にあるので、時間的に作品の一部に解答やヒントが集中しているように思われるが、殺害現場のシーンで確認できるのは 1)、2)、3)、4)のみであり、5)と6)は作品の後半を見て初めて解答できるものである。このように複数の質問を並べる場合は、質問の性質や言語的特徴に基づいて羅列するのではなく時間順に解答可能な配置にすべきである。

以上の質問の答えは、上映後にすぐ与えず、まずはペアワークまたはグループワークで確認させてから誰かを指名してクラス全体の前で答えさせる。この際、クラスのレベルに応じてすべて英語で行ったり、部分的に英語で行うことも考えられる。

また、正解をより効果的に確認するために、答えとなるシーンを時間順に編集したテープをあらかじめ用意しておき手際よく提示するとよい。巻き戻し再生の作業は時間を浪費するだけでなく、授業の流れを狂わせることもあるので、この種の準備は万端にしなくてはならない。

3-1-1-2-2. 登場人物を描写する (describing characters)

これは著者がゼミで12 ANGRY MEN (1957) の全編を鑑賞させた時に与えたタスクである。Figure 5にある著者手書きのハンドアウトを配付した。これと同時に人物を記述するに用いられる形容詞のリスト¹²⁾ (Appendix IV 参照) も配布し、そこから登場人物に合った形容詞を無制限に選出してもらう。これを週1回のゼミで毎回行えば、リストの中のかかなりの項目が学習でき、発信語彙へと発展することが期待される。

3-1-2. 音声認識 (aural perception)

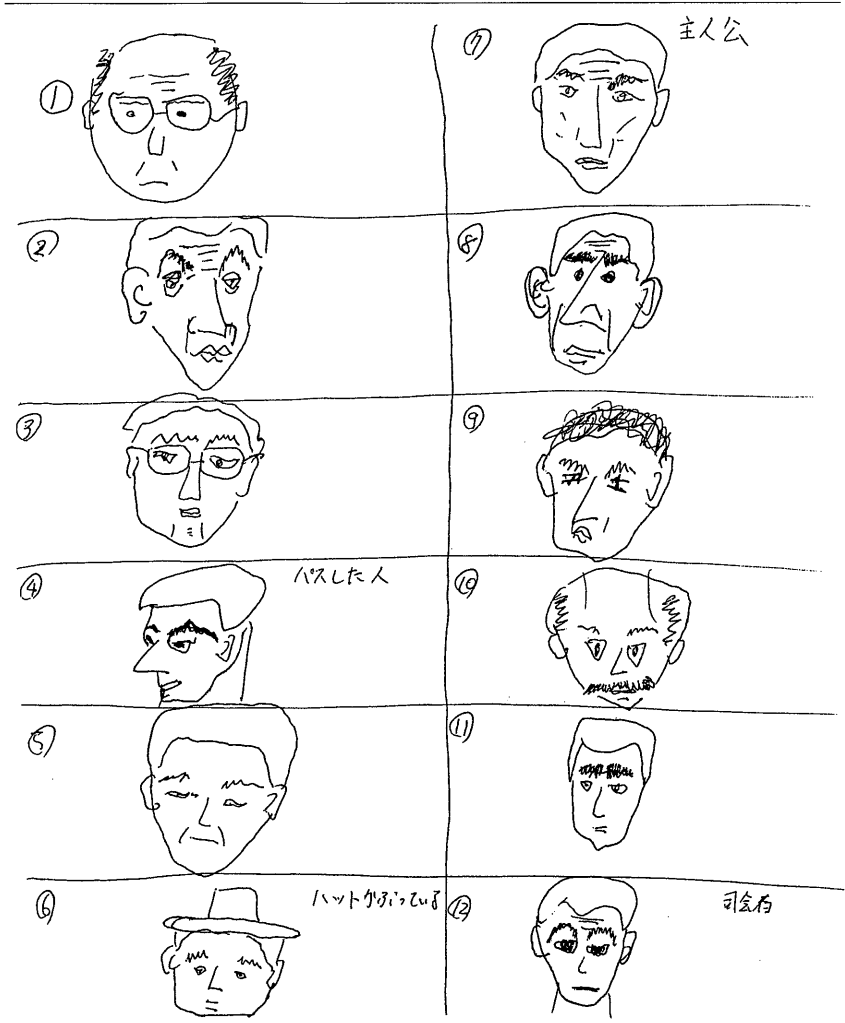
内容理解と違い、音声認識タスクの主たる目的は、特定の音、音の連結、イントネーションなどを特定する練習をするものであり、視覚的なヒントや文脈のヒントは排除されるか最小限に抑えられるものである。(Ur, 1984) また、あくまでも音声認識の能力を問うものであって語彙知識を問うものにならないように対象となる語彙項目の選定は極力既習の平易なものとするべきである。認識を確認し記録する方法によって、無作為聞き取りと指定語句聞き取りのためのタスクの2つのタイプに分類できる。

3-1-2-1. 無作為聞き取り (unlimited listening)

認識できた語彙項目を全て書き取らせるタスクである。また、書き取ったものに対して何らかのフィードバックを与えるべきであるが、すべての学生に対して個別化したフィードバックを与えるは困難なため、ペアワークやグループワークで出来具合をお互いに確認させる時間を必ず取るようにしたい。その際できるだけ同じレベルの学生同士が一緒になるようにすることが理想である。レベルが分からない場合は、学期の始め頃に1度書き取ったものを提出させ、それを診断テストとして活用し出来具合に応じてクラス全体を数グループに分ける方法もある。

他のフィードバックの与え方は、何人かの学生に板書してもらう方法であるが、たくさん書き取っている学生とそうでない学生との差が大き過ぎると、

FIGURE 5 12 ANGRY MEN の人物表現用シート



落胆する学生が出てくるので、そのタイミングの判断が重要である。

上級者にすべての語句を書き取りを課せば、切りないほど書き取れてしまうので、センテンス単位で認識できたものだけを書き取るなどのより高度な

指示を出すといふ。著者は時折ゼミでこの手法を取り入れているが、半年、1年と過ぎるごとに着実に書き取っている項目が増えていることがわかる。

3-1-2-2. 指定語句の聞き取り (focused listening)

無作為ではなく特定の種類の語彙項目をあらかじめ指定してから書き取らせる方法である。2時間の間にインプットされる言語資料は膨大であるが、聞き取りの対象を限定することで集中力が維持されると考えられる。また、この方法でも実際は2時間ずっと神経を集中することは無理であり、著者がゼミで行ってきた経験からは、30分～1時間後には多くの学生が書き取りをやめてしまうので、後述する5～10分位の部分提示で行う方が適切である場合もある。

リスニングでは、連続して聞こえてくる音声を意味ある単位に心の中で分ける“segmentation” (Richards, 1987: 162) が意識、無意識のうちの行われている。一端心的な segmentation された個々の部分は、語彙的、統語的ラベル化のいずれかが、または両方がほぼ同時に行われる。個々の要素の語彙的ラベル化 (lexical labeling) だけでは、おおよそのメッセージは理解できても正確さに欠ける。個々の要素の統語的ラベル化 (structural labeling) だけでは構造がわかるだけで意味は不明である。個々の要素は、その語彙的な意味と他の語との統語関係が同時に理解されることで記号解読作業が完了する。指定語句の聞き取り作業はそのプロセスを促進する一助になると考えられ、以下3つのレベルに分けられる。

第1は、特定の品詞を聞き取らせる方法である。動詞、形容詞、副詞、冠詞などが考えられる。品詞のラベル化は、文の中でのそれぞれの機能を特定し正確にセンテンスの意味を理解するために不可欠なプロセスである。

第2は、特定の機能を持つ語彙項目を聞き取らせる方法である。「主語」「動詞」「目的語」「補語」などを聞きながらラベル化することで文構造と意味を理解できるようになる。

第3は、特定のジャンルの語彙項目を聞き取らせる方法である。数字や曜

日、動物の名前などのジャンルを指定して行う方法である。ジャンル別の聞き取りは、現実の目標言語使用の際に必要な時がある。例えば、米国のグレイハウンドバスのバスディーポでは、乗り場の変更などの放送がかかることがあるが、そのような場合数字は聞き漏らせない情報である。同様に、リーディングでは、薬の注意書きなどは量を正確にかつ即座に知る必要がある。すなわち、ターゲットとすべき情報 (target information) と周辺の情報 (peripherral information) の聞き分けが必要なわけだが、このタスクによってその訓練ができるものと考えられる。あらゆるジャンルの中で数字がもっとも顕著 (salient) であり、実用性も高いが、他に人物名や職業、場所を表す語句、頭字語などを聞き取らせることもできる。

著者の授業では、品詞と組み合わせ、数字、動詞、形容詞、その他を聞き取らせることが多い。その他の部分は内容に応じて毎回変わる。クラス全体で同じ品詞を扱う方法とグループに分けて行う方法がある。著者のクラスでは、洋画に限らず時事英語の授業でも2、3分のニュースを聞かせて、数名のグループをクラスの中にいくつも作って共同作業させ、氏名と共にグループ全体でまとめてあげたものを紙に書かせ提出させている。2、3度聞かせインターバルごとに各グループ内で相談させた後でグループの代表に板書させることで、他グループとの比較ができる。最後にもう1度ビデオを見せながら確認させる。

3-2. 部分提示 (partial presentation)

部分提示とは、特定のシーンを短期間提示する方法であるが、提示時間を制限し授業時間内に収まるという授業マネジメント上の事情よりも学習者が集中できる長さを考慮したものである。タスクの性質、作品の特徴や学習のレベルによって長さはさまざまであるが、著者は1分程度の長さが適切であると考えられる。

部分提示により、同じシーンを2、3度繰り返し提示することが可能になる。それによって学習者の理解度が高められるものと考えられる。全体提示

の場合と同様に内容理解を目的とするタスクと音声認識を目的とするタスクに大別できる。

3-2-1. 内容理解 (comprehension)

内容の理解を確認する方法は、従来からある英文読解で用いられている出題形式を採用することができる。一般的には、多義選択、内容真偽、質疑応答の3つが一般的であるが、これらの設問を与えるのはあくまでもタスクとして扱い解答する過程で学習を促進することを主眼としているのであって評価を目的にしているのではない。以下それぞれの形式と洋画シーンへの応用について記述する。

3-3-1-1. 多義選択 (multiple-choice)

TOEFL の設問形式

多義選択は入学試験や実用英語検定試験をはじめ、TOEFL や TOEIC の Listening Section で従来から採用され、四択の形式が定着している。マークシート方式の導入で普及した形式であるが、選択肢があることで記述する手間が省け、よって注意が逸れることがないのでリスニング問題には最適の形式と言える。

Figure 6、Figure 7、Figure 8 は ETS (English Testing Service) 発行 (1997) の TOEFL の対策問題集からの抜粋である。従来の Paper-Based TOEFL の Listening Section は、すべてマークシート方式の多義選択形式の問題となっており、真偽問題 (true or false) や質問に答えを書き込むような問題はない。Listening Section は、A: short conversations B: longer conversations C: short talks の3部構成となっている。

A の「短い会話」は、男性と女性の2者の隣接ペア (adjacency pair) からなり、質疑応答、挨拶、問題と解決、報告と受領、要求と承認、主張と同意または反論、謝罪と許容などのパターンが観察できる。ひとつの会話に引き続いてひとつの質問がテープから流れ、試験用紙に既に印刷されている4つ

の英文から答えとしてもっとも適切なもの (the best answer) を選びマークシートを塗りつぶす。ごく短い会話なので、聞き漏らしがないようにする訓練が必要である。

Bの「長い会話」は、ターンが10以上も続き、問題もひとつの会話の後に4つほどの設問が用意されている上、メモをとることが許されていない。このため長期記憶の個人差が解答に影響を与えていることは明白であり、テストとしての妥当性 (validity) に問題がある。この会話の長さは、洋画作品の中では一般的なものであり、抜粋し TOEFL 対策として問題を作成することも可能である。Aの形式は短すぎるために隣接ペアとして完結する例を洋画の台詞の中で見つけるのは困難かも知れない。Bの対話に対する質問は具体的であることが特徴で、そのためAほど頻出の質問は特定できない。

Cの形式は、大学の講義や一般の講演会などと比較すると、“short talk”とは言え200語以上のしっかり中味のある独話であり、しかもメモをとることが許されていないため、解答の出来具合が長期記憶に影響される割合が極めて大きい。また、ひとつの独話の後に3～5つの設問があり、これも4択式となっている。質問もB同様で、内容に即した具体的なものであるが、第1問は内容の概略について問うものが多く、“What is the talk [lecture] mainly [mostly] about?” “What is the purpose of the talk?” “Who is the speaker?”などが頻出している。

先程も触れたように、本文を聞いてから設問を聞く形式は、Richardsの5原則の中で批判されている記憶に依存する形式に相当するようであるが、Aについては、短い会話であり長期記憶に依存する割合は小さい。一方、B及びCの形態は明らかに記憶依存が高い。しかも、ペーパー方式、コンピュータ方式の双方にてメモをとることが許されていない現状をみると、受験者にかなりの負担を科していることがわかる。長期記憶の個人差が聴解力の個人差を歪めている可能性が高く、試験としての妥当性に問題があり将来改善されるべきである。

以上3つのリスニングのパートは、設問の形態にパターンが見られ、著者

がこれまで調べたところでは、Table 4 にある質問項目が頻出している。

FIGURE 6 TOEFL Section 1: Listening Comprehension Part A

- (woman) *How often do the buses run ?*
 (man) *Every half hour on weekdays, but I'm not sure about weekends.
 There's a schedule on the corner by the bus stop.*
 (narrator) *What does the map imply ? (p.155)*
- (A) The woman should check the bus schedule.
 (B) The buses stop running on Fridays.
 (C) The bus doesn't stop at the corner.
 (D) The schedule on the corner is out-of-date. (p.12)
-
-

FIGURE 7 TOEFL Section 1: Listening Comprehension Part B

- (woman) *Let's go to the penguin house.*
 (man) *Great ! I read that they've added a couple of emperor penguins from
 Antarctica.*
 (woman) *I was hoping to stay in the warmer section. You know, they have some
 penguins here from the Galapagos Islands — and that's practically on
 the equator.*
 (man) (以下 13 ターン省略)
31. *Why does the man want to visit the penguin house ? (pp.158-159)*
- (A) The zoo has built a rookery there.
 (B) He's writing a book about penguins.
 (C) He's interested in seeing a certain species.
 (D) It has recently been renovated. (p.16)
-
-

FIGURE 8 TOEFL Section 1: Listening Comprehension Part C

*Current studies show that what goes on labels is an important consideration for
 manufacturers, since more than seventy percent of shoppers read food labels when
 considering whether to buy a product. (以下 205 ワード省略)*

39. *What was the controversy about ? (p.161)*
- (A) Whether it is necessary to put labels on prepared foods.
 (B) What the daily requirements for certain nutrients should be.
 (C) How to get consumers to read labels more carefully.
 (D) What information food manufactures should provide to consumers. (p.18)
-
-

TABLE 4 TOEFL Section 1: Common Questions

A: Short conversations● 一方の発話者の発言の意味を問うもの

- 1) What does the man [woman] mean?
- 2) What does the man [woman] imply?
- 3) What does the man [woman] imply about _____?
- 4) What does the man [woman] say about _____?

● 会話全体の内容を問うもの

- 5) What are the speakers discussing?
- 6) What can we assume from this conversation?
- 7) What is the man's [woman's] problem?
- 8) What problem does the man [woman] have?

● 特定の内容を問うもの

- 9) What can be inferred about _____?
- 10) What do we learn about _____?
- 11) What do we know about _____?
- 12) What did the man [woman] do?

● 助言や提言の内容を問うもの

- 13) What does [did] the man [woman] suggest?
- 14) What does the man [woman] suggest the woman [man] do?
- 15) What does the man [woman] advise the woman to do?
- 16) What does the man [woman] think that the woman [man] should do?

● 発話者の心情を問うもの

- 17) What had the man [woman] assumed about _____?
- 18) How does [did] the man [woman] feel about _____?

● これから何をするかを問うもの

- 19) What is the man [woman] (probably) going to do?
- 20) What will the man [woman] probably do next?
- 21) What does the man [woman] want to do?
- 22) What does the man [woman] want to _____?

● 会話が行われている場所を問うもの

- 23) Where did this conversation most probably take place?

B: Longer conversations● 会話の主旨を問うもの

- 24) What do the speakers mainly discuss?

● 会話の目的を問うもの

- 25) What prompted this conversation?

● 理由を問うもの

- 26) Why did [didn't] they _____?

C: Short talks● 会話の主旨を問うもの

- 27) What is talk [lecture/presentation/announcement] mainly about?
- 28) What is the main topic of this lecture?
- 29) What central theme does the lecture examine?
- 30) What is the purpose of the talk?
- 31) What does the lecturer mainly discuss?

洋画シーンへの応用

これらの3つの形式を考慮し、洋画の特定シーンからタスクを作成する場合、長い会話と独話が適切であろう。長い会話では、恋人同士の会話、タクシーの運転手と客の会話、刑事と犯人、検察と被告人など多彩である。独話は、作品の始めや終わりのナレーションの部分、判事の発言、英雄の演説など材料は尽きない。そこで試作したのが Figure 9 と Figure 10 である。

Figure 9 は、LEON (1996) での Matilda と Leon が初めて交わす会話である。この会話の長さでは、2、3題の設問で十分であろう。いきなり提示せず時間の許す限り前の部分を日本語字幕付きで提示する。そこまでの部分はあくまでもこの対話の背景を理解するための前置きであり学習対象としての言語データではないので、詳しい説明は省いても構わない。また、語彙に関して言えば、“dirt-bags”や“5 grands”については、事前に解説しておいた方がよいだろう。

設問は全て事前に提示する。設問を複数作る時は、Blundell & Stokes (1981) が提案した“global comprehension” (全体的理解) と“parial comprehension” (部分的理解) の区別を意識して、最初の設問は内容の大筋を問うものとし、2、3問目と進むに従ってより細部の情報を問う形式にすることができる。大筋の理解と特定の情報を聞き取る技能は実際のリスニングの場面で必要であるので、双方を求める設問にすることが望ましい。

さらに、設問の内容もこの対話から得られる情報だけで答えられるものにするべきであり、この対話の前のシーンを全部見せた後では、“What happened to Matilda?”などの質問は適切ではない。しかし、この対話から始めた場合は、“How much would it cost to hire someone to get those dirt-bags who killed my brother?”という質問の答えは提示場面情報に依存するので適切と言える。ただし、LEON のような人気のある作品では話の筋を既に熟知している受講生がいることが多く、既成の知識から答えられるような設問にならないようにしなければならない。

提示の方法は既に述べたように、まずは、画面を提示せず音声だけのカッ

トを1度聞かせる。その後字幕なし画面で音声のあるカットをもう1度、3度目に英語字幕または日英両語を音声のあるカットを提示し、ところどころ止めながら解説を加えながら確認する。

FIGURE 9 A longer conversation and multiple-choice questions

Matilda: *Leon, what exactly do you do for a living?*
 Leon: *Cleaner.*
 Matilda: *You mean you're a hitman?*
 Leon: *Yeah.*
 Matilda: *Cool.*
 Leon: *You clean anyone?*
 Matilda: *No woman, no kids. That's the rule.*
 Matilda: *How much would it cost to hire someone to get those dirt-bags who killed my brother?*
 Leon: *Five grands a head.*
 Matilda: *Wow.*

- Q1: What is Leon?
 (A) teacher (B) hitman (C) woman (D) brother
- Q2: Does Leon kill anyone?
 (A) Yes, he kills anyone. (B) No, he kills only women.
 (C) No, he kills only kids.
 (D) No, he doesn't kill women or children.
- Q3: How much does it cost to ask Leon to kill a person?
 (A) 500 dollars (B) 5,000 dollars
 (C) 50,000 dollars (D) 500,000 dollars
-

Figure 10 は、ARMAGEDDON (1998) の冒頭のアナウンスであるが、かなり高度な語彙が含まれているのでプレ・リスニング活動として、語彙の解説に時間をかけるべきである。設問と選択項目はあらかじめ提示しておく。設問数は、この長さでは3つぐらいが適当であると思われるが、Q1に話の概略を問う質問、Q2、Q3になるに従って具体的な情報を問う形態が望ましい。語彙や内容の難易度に応じて2、3回またはそれ以上反復提示することが必要である。

提示の方法は既に述べたように、まずは、画面を見せないで音声だけで2度、その後字幕なし画面のカットを1度、最後に、英語字幕または日英両語

と音声のあるカットを見せ確認させるようにする。

FIGURE 10 A short talk and multiple-choice questions

This is the earth at the time when the dinosaurs roamed a lush and fertile planet. A piece of rock just six miles changed all that. It hit with the force of 100,000 nuclear weapons. A trillion tons of dirt and rock hurtled into the atmosphere, creating a suffocating blanket of dirt. The sun was powerless to penetrate for a thousand years. It happened before. It will happen again. It's just a question of when.

- Q1: What is the talk mainly about?
 (A) dinosaurs (B) a piece of rock (C) fertile planet (D) weapons
- Q2: What created a suffocating blanket of dirt?
 (A) nuclear weapons (B) dirt and rock (C) the sun (D) the earth
- Q3: How long was the sun powerless?
 (A) six years (B) 100,000 years (C) 1,000 years (D) unknown
-

3-3-1-2. 内容真偽判定 (true or false)

これは黒板やハンドアウトに本文に関する英文または和文を羅列し、それぞれについて、対話や独話の内容と照らし合っていれば“true”、合っていなければ“false”を選択させる形式が一般的である。また、選択させるに留まらず正しく書き改めさせるタスクを入れることも可能である。さらに教師が読み上げて真偽を判断させてもよい。

内容真偽問題は、多義選択ほどの手間はかからないが、注意して作らないと false としようとしたものの、true でもいような場合が後で発覚することがある。解釈が分かれないう明らかな相違があるように作文しなければならない。

先程の LEON の対話を使用すれば以下にあるような内容真偽の例文ができる。やはりこのくらいの長さであれば、2、3の英文が適切であろう。クラスのレベルによっては和文で提示することも考えられる。事前に配布しておくことが望ましいが、情報を与え過ぎてボトム・アップ的な内容理解のプロセスが疎かになると判断すれば、リスニング後に入れればよい。

1. It seems Matilda is much ininterested in Leon's work. (T/F)
2. Leon kills anybody but woman and kids. (T/F)
3. Leon usually does not demand money for his job. (T/F)

また、ARMAGEDDON のナレーションを使用する場合は、以下のような英文を作ることができる。

1. The earth used to be a fertile planet. (T/F)
2. The rock hit the earth with the force of 1,000 nuclear weapons.
(T/F)
3. The sun became powerless because of the hit for thousands of
years. (T/F)

3-2-1-3. 質疑応答 (questions & answers)

ここでいう質疑応答は、選択肢を用意せず学習者に自由に口頭または筆記で答えさせる形式である。基本的には、多義選択の選択肢を取り除いたものをそのまま使用することが可能であり、先程の LEON の会話では以下の質問が用意できる。

- Q 1. What is Leon?
- Q 2. Does Leon kill anyone?
- Q 3. How much does it cost to ask Leon to kill a person?

また、ARMAGEDDON のナレーションの部分を使えば以下の質問を作ることができる。

- Q 1. What is the talk mainly about?
- Q 2. What created a suffocating blanket of dirt?
- Q 3. How long was the sun powerless?

これらの質問をリスニングの前に提示し、注意の焦点が定まるようにする。多義選択と違い、学習者の発話しなければならないので負担も大きい。そのため、レベルによっては日本語で聞いて日本語で答えさせたり、英語で聞いて日本語で答えさせるなど臨機応変の手法をとることが大切である。画像

の提示の仕方はこれまで述べてきた方法に従う。

3-2-2. 音声認識 (aural perception)

音声の認識のためのタスクとして1) リスト語句の認識、2) 特定語彙に対する身体反応、3) 相違箇所の修正、4) 聞き取り語句の選択、5) 空欄穴埋め書き取り、6) 語彙演習と空欄穴埋め、7) 英文の書き取りの7つをここに紹介する。

これらは個々の単語の聞き取り能力を高めるのが目的であり、内容の理解の一助となるものである。あるシーンの音声認識のためのタスクにどれを採用するか否かは、教師の裁量であるが、特定のタスクをひとつだけ採用する方法と、いくつかを組み合わせる方法もある。また、同じテキスト (text) を時間を置いて異なるタスクを与えるのも可能である。

また、これらの音声認識タスクは、これまでに紹介した内容理解のためのタスクの後に、改めて音声を出すべきである。その際音声に集中させるために画像は消した方がよい。

3-2-2-1. 無作為聞き取り (unlimited listening)

全体提示のところで説明済みのため省略する。

3-2-2-2. 指定語句の聞き取り (focused listening)

同上。

3-2-2-3. リスト語句の認識 (listed items)

まず、作品について説明し、背景について十分明らかにした上で、提示シーンで出てくる語彙項目の中で難解で事前に説明した方が望ましいと思われる語句や、平易であるが頻度が高い語句や決まり文句などをリストアップし説明する。Figure 11 は著者の授業で実際に配付されたハンドアウトである。

ハンドアウトに見られる星印が付いた語彙項目は、著者が使用している洋

画で頻出の語彙項目を集めて紹介している市販のテキスト⁹⁾に掲載されている項目で、毎回の授業ではその中からひとつを指定して宿題として APPENDIX III にあるダイアログシートを完成させ提出させている。

この形態では、リストされた語彙項目の提示後、画像なしで音声だけをまず聞かせた後に、字幕なし、または日本語字幕付きの画像を提示する。レベルによってはもう1度繰り返すが、一般的には3度目は日英両語の字幕が付いている画面を提示し、時折止めながら何らかの説明を加えるとよい。

FIGURE 11 リスト語句の認識

Name: _____ (ID _____) Day & Date: _____, _____, 2001
 Title : **STAR WARS: Episode I-Phantom Menace** (1999)
 Genre : Sci-Fi/Fantasy/Action/Adventure
 Directed by : George Lucas
 Cast : Liam Neeson / Ewan McGregor / Natalie Portman
 User Rating : 7.5/10 (21263 votes) W/3/29/00
 Plot Outline : Two Jedi knights and an outcast must help a queen save her world, and along the way discover a boy who has the potential to be a powerful Jedi himself.

● SCENE 1

[] 1) Yes, sir !** (p.39)	Yes, ma'am !** (p.29)
[] 2) with all due respect** (p. 100)	_____
[] 3) immediately** (p. 26)	_____
[] 4) at one's service	_____
[] 5) be with** (p. 58)	_____
[] 6) elusive	=hard to find or remember
[] 7) be mindful of	=keep in mind
[] 8) coward	=a person who is afraid of pain or danger
[] 9) negotiation	negotiate/negotiator
[] 10) settlement	和解、解決
[] 11) brain dead	脳死の
[] 12) trivial	=of little worth or importance
[] 13) stunted slime	萎縮したいやな奴
[] 14) troops	兵士
[] 15) corporal	伍長(軍服用語)
[] 16) What is going on?*(p.202)	_____
[] 17) as you wish	as you like/as you want
[] 18) Roger.	_____
[] 19) standoff	_____
[] 20) Let's go.** (p.133)	_____

Do you like this movie? strongly disagree ← 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 → strongly agree

Your comments: _____

3-2-2-4. 特定語彙に対する身体反応 (total physical response)

前で紹介したリスト語句の認識では、ハンドアウトにあるボックスにチェックを入れるよう指示しても従わない学生が出てくる。これに対処するために、リスト語句を聞き取れた瞬間になんからのジェスチャーをさせることが考えられる。もっとも一般的なのは、挙手させることだろう。これによって気を緩めては聞けなくなるから集中力も高まり、学習者の授業参加が促される。

Paulston (1971) は、タスクには“mechanical response” (機械的応答)、“meaningful response” (意味ある応答)、“communicative response” (意思疎通の応答) の3つのいずれかを求める性質があるとしている。機械的応答とは、音声認識は求められるが内容理解を必要としない聞き分け (discrimination task) などのことである。意味ある応答とは、内容理解と音声認識の両方が求められる指示に従って起こす何らかの行動のことである。意思疎通の応答とは、これに創造的な要素が加わったもので、問題が提示され、その解決策を提案するような行動のことである。この範疇をあてはめると、音声認識に対する身体反応は、機械的応答と意味ある応答の中間に位置するものと考えられる。

この方法の応用編として、少数 (3～5人) の学生に他の学生にわからないようにある一定の指示を与える方法がある。例えば、その少数の学生に登場人物が付加疑問文を使う度に片手を挙げさせる。周りの学生たちには、この少数の学生たちが手を挙げるシーンで使用されている英語の構造に注意するよう指示する。注意としては、何度も付加疑問文が出てくるシーンでなければならぬことと、同じ指示は出せないということである。また、周囲の学生からよく見えるように指示を受ける集団を教室の前の方へ座らせることが必要だ。他の例としては、台詞は肯定文の時は左手、否定文の時は右手、疑問文 (否定疑問も含めて) の時は両手を挙げる指示も考えられる。また、挙手以外の身体的反応として首を振ったり、顔の表情を変える方法もある。

3-2-2-5. 相違箇所¹⁾の修正 (error correction)

対話や独話を書き出したハンドアウトに数カ所の下線を引きその中から実際話されているのとは異なる箇所を指摘させ正しい形に修正させるタスクがある。

このタスクでは、微妙な音の相違を認識する力を養成することが目的なので、「15」「50」のような間違えやすい数字、冠詞の有無、複数の名詞の語尾につく形態素の有無などに適している。また、微妙なものだけではなく、明らかに違う箇所も作っておいた方が学習者の落胆を避けることができる。

Figure 12 は、ARMAGEDDON (1998) の作品の冒頭²⁾のナレーション部分のテキストである。

FIGURE 12 相違箇所修正シート

- 1) 以下の英文の 10 箇所の下線文のうち 6 箇所が違うので訂正してください。
- 2) 今度を画面を見ながらもう 1 度確認してください。

This is the earth at the time when the dinosaurs roamed a lush and fertile planet. A piece of rock just six miles changed all that. It hit with the force of 100,000 nuclear weapons. A trillion tons of dirt and rock hurtled into the atmosphere, creating a suffocating blanket of dirt. The sun was powerful to penetrate for a thousand years. It happened before. It will happen again. It's just a question of how.

3-2-2-6. 聞き取り語句の選択 (word choice)

これは、対話や独話のテキスト中にほぼ等間隔^{かんかく}に空欄を設け、2 語または 3 語の選択肢を設け、学習者が聞き取った語句を選択する方法である。完全な空欄と比較して書き込みのために時間をロスしたりスペルがわからず書き込めないなどの問題を解消してくれる利点があるが、紛らわしい語句を並記しなければならず作成に時間がかかる。

この空欄穴埋めタスクの作成については、歌詞の聞き取りシートではあるが小林 (1999: 38) が作成にあたって注意すべき事項として 4 点を挙げてい

るので以下参考にしていきたい。

- 1) Decide the number of blanks and choices according to the level of students.
- 2) Make a blank for a repeated word or phrase.
- 3) Make a blank or a choice at proper intervals.
- 4) The choices should consist of one of a minimal pair, synonym, homonym, related word, similarly-sounded word, etc.

第1について、レベルに応じて空欄や選択欄の数を決定するが、多過ぎては難しいので Figure 12 ぐらいの長さのテキストの場合は、7 から 10 箇所ぐらいが適切であろう。まったく異なるレベルの学習者を対象に同じ作品の同じシーンを使用する場合は、2、3 のバージョンを作成しておくよ。

第2に、空欄にするか選択欄にするかを決定することであるが、ここでは全て選択欄にするシートの作成について記述しているので関係がないようであるが、次で紹介する完全な空欄にするシーンとの選択において重要になってくる。歌詞カードの場合は、さびの部分 (refrain) を空欄にし、その他は選択欄であるというように混成した形態が取れる。洋画シートにも混成の形態を取ることも可能ではあるが、歌詞と違ってさびの部分のような繰り返される箇所はあまりないので同等の扱いはできない。繰り返しのない洋画の台詞の中で空欄を設けるには、聞き取りが比較的平易な語彙項目などに限定され、また単語の最初の文字をあらかじめ印刷するなどの工夫が必要である。

第3について、適切な間隔を置いて選択欄を作ることだが、5 ワード以上の間隔を置いた方がよい。また、全体として均等に分散されることが理想である。特に最後の方に何もなければ学習者は終わりまで聞き続けず途中でざわつくこともあるので、最後の 10 ワード以内も 1 箇所設けたい。

第4は、選択肢の正解とそれ以外の語彙項目をどう選ぶかの基準である。一般的に音が似ていてかつ文脈に合致したものが含まれていれば申し分ない。しかし、多くの場合、聞かなくても見た段階でわかってしまうものを留意してしまうことがある。Figure 13 は、著者が実際に授業で配布したシート

のひとつであるが、選択欄1のように音はまったく違っていても関連した語を並べる場合もある。このように比較的平易な選択欄を冒頭に設置することで、ウォーミングアップの効果と学習者に自信をつけさせる効果が期待できる。

FIGURE 13 聞き取り語句の選択シート

Name: _____ (ID _____) Day & Date: _____, _____, 2001
 Title : **TITANIC** (1997)
 Genre : Drama/Action/Romance
 Directed by : James Cameron (Writing credits James Cameron)
 Cast : Leonardo DiCaprio/Kate Winslet/Billy Zane/Kathy Bates
 User Rating : 7.2/10 (36325 votes) W/3/29/00
 Plot Outline : Fictional romantic tale of a rich girl and poor boy who meet on the ill-fated voyage of the 'unsinkable' ship.

次の7箇所の()内の語句のうち実際に話されているものを選んでください。

Rose: It's getting quiet.

Jack: It's just going to take them a couple of (1: **seconds/minutes/hours**) to get the boats organized. I don't know about you. But I intend to write a strongly worded letter to the White Star Line about all this.

Rose: I love you, Jack.

Jack: Don't you (2: **do/say/tell**) that. Don't you say your good-byes. (3: **Not now./Not yet.**) Do you understand me?

Rose: I'm so cold.

Jack: Listen, Rose. You're going to get out of here. You're going to go on and you're going to make lots of babies and you're going to watch them (3: **glow/grow**). You're going to die old. An old lady warm in her bed. Not here. Not (4: **tonight/this night**). Do you understand me?

Rose: I can't feel my body.

Jack: Winning that ticket, Rose, was the best thing that ever happened to me. It brought me to you... And I'm thankful. You must... You must... You must do me this honor. You must promise me that you'll survive. That you won't give up...no matter (5: **how/what**) happens, no matter (6: **how/what**) hopeless. Promise me now, Rose. And never let go of that promise.

Rose: I promise.

Jack: Never let go.

Rose: I'll never let go, Jack. I'll never let go.

Do you like this movie? strongly disagree ← 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 → strongly agree

Your comments: _____

3-2-2-7. 空欄穴埋め書き取り (fill-in-the-blanks)

前記したように選択肢と違い完全な空欄に聞き取った語句を入れさせるのはより高度で負担がかかるものである。書き取るタスクが加わるために聞き取るという受信技能と書き取るという発信技能を同時に稼働させるため心理的負担は大きいので、やや遅く話される台詞を選ぶことが大切である。

書き取るのに時間がかかる分だけ空欄の間隔にゆとりを持たせなくてはならない。また、選択肢よりも平易な語彙を選ばせたり、語頭の1文字をあらかじめ提示しておいたり、文字数がわかるように割れ線で下線を作るなどの工夫も必要である。

ただし、歌詞のさびのように繰り返される語句でなくても全体だけではなく特定の部分を繰り返し再生させるなどの工夫が必要である。再生する度に何らかのヒントを口頭で与えることも可能である。

Figure 14 は、著者が実際に授業で配布したシートである。THE MATRIX (1999) で主人公の Keanu Reeves 演じる Neo が Agent Smith の尋問を受けているシーンである。Agent Smith は凄んだ声でゆっくりと明確に話しているので書き取りには適した素材である。空欄になっている以外にやや難解な語彙が多くあり、和訳を添えた形にしている。一方、Neo の発話は早くやや不明確であるが、幸いなことにこのシーンでは台詞が極めて少ない。このシーンは対話の形態をとってはいるが、実質的には Agent Smith の独話から成っている。もっと両者の発話量のバランスのとれた対話でも、一方の話者の発話が聞き取りにくい場合があり、その場合聞きやすい話者の台詞の方を中心に空欄を作ることになる。学習者の心理的負担を考慮すれば、複数の人間の発話を書き取るよりも1人の発話に集中した方が負担が少ない。

3-2-2-8. 語彙演習と空欄穴埋め (vocabulary task & fill-in-the-blanks)

前記の空欄穴埋めを更に語彙増強の要素を入れたのがこの混成スタイルである。Figure 15 は、著者が実際に授業で配布したシートである。動詞とそれぞれの英語の定義文を結び付ける時間を与え、ペアワークやグループワーク

で仕上げさせる。辞書などは自由に使用させ、正解を確認してから作品を見る。語彙演習を加えることで語彙の記銘が深まり、よって保持が強化されると考えられる。

FIGURE 14 空欄穴埋め演習シート

Name: _____ (ID _____) Day & Date: _____, _____, 2001
 Title : **THE MATRIX** (1999)
 Genre : Action/Thriller/Sci-Fi
 Directed by : Andy Wachowski/Larry Wachowski
 Cast : Keanu Reeves/Laurence Fishburne/Carrie-Anne Moss
 User Rating: 8.6/10 (25992 votes) W/3/29/00
 Plot Outline: A computer hacker suddenly learns from mysterious rebels that his whole reality is not what it appears to be at all.

AGENT SMITH As you can see, we've had our eye on you for some time now, Mr. Anderson. It seems that you have been living two lives. In one life, you are Thomas A. Anderson, program writer for a (1: r _____ e) software company.
 社会保障番号 You have a **social security number**, you pay your taxes and you help your land lady carry out her (2: g _____ e). The other life is lived in computers where you go by the (3: h _____ r) **alias** Neo, and are guilty of virtually every computer crime we have a law for. One of these lives
 別名、偽名 has a (4: f _____ e). One of them does not. I'm going to be as
 進んで話している **forthcoming** as I can be, Mr. Anderson. You are here because we need your help. We know that you have been contacted by a certain (5: i _____ l). A man who calls himself Morpheus. (6: W _____ r) you
 ～に無関係な think you know about this man is **irrelevant**. He is considered by many authorities to be the most (7: d _____ s) man alive. My colleagues believe that I am wasting my time with you, but I believe you wish to do the
 水に流す right thing. We're willing to **wipe the slate clean**, to give you a fresh start and all we are asking in return is your cooperation in bringing a known terrorist to (8: j _____ e).
NEO Yeah. Wow. That sounds like a real good (9: d _____ l). But I think I have a better one. How about I give you the finger — And you give me my phone call.
AGENT SMITH Mr. Anderson. — You disappoint me.
NEO You can't scare me with this **gestapo crap**. I know my rights. I want my phone call. ナチス秘密警察のやり口
AGENT SMITH Tell me, Mr. Anderson, what good is a phone call if you are unable to speak?
 You are going to help us, Mr. Anderson, (10: w _____ r) you want to or not.

Do you like this movie? strongly disagree ← 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 → strongly agree
 Your comments: _____

ここでは動詞だけを扱っているが、他の品詞でも構わない。また、品詞にこだわることなく重要な語句を取り上げてよい。レベルに応じて英文定義ではなく、和訳を選ぶ方法でもよいだろう。動詞の場合、文脈に応じて語形

FIGURE 15 語彙演習・空欄穴埋め演習シート

Name: _____ (ID _____) Day & Date: _____, _____, 2011
 Title : DEEP IMPACT (1998)
 Genre : Drama/Sci-Fi/Action
 Directed by : Mimi Leder (Writing credits - Bruce Joel Rubin and Michael Tolkin)
 Cast : Robert Duvall/Vanessa Redgrave/Morgan Freeman/James Cromwell
 User Rating: 6.0/10 (6948 votes) W/3/29/00
 Plot Outline: Unless a comet can be destroyed before colliding with the Earth, only those allowed into shelters will survive. Which people will survive?

以下の動詞とそれぞれの動詞の意味を表わす定義を右から選びなさい。さらに必要に適切な形に変えて空欄に書き入れなさい。同じ動詞が繰り返し使われている箇所があるので注意すること。

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> burn • | • to damage or destroy by fire |
| <input type="checkbox"/> comfort • | • to carry by the force of moving water |
| <input type="checkbox"/> fall • | • to move back or away |
| <input type="checkbox"/> hit • | • to feel great joy |
| <input type="checkbox"/> honor • | • to set in proper order or position |
| <input type="checkbox"/> lay • | • to break suddenly into very small pieces |
| <input type="checkbox"/> light up • | • to make bright |
| <input type="checkbox"/> lose • | • to have a bad effect on |
| <input type="checkbox"/> reach • | • to be destroyed |
| <input type="checkbox"/> recede • | • to plant on |
| <input type="checkbox"/> rejoice • | • to make less unhappy |
| <input type="checkbox"/> shatter • | • to express great respect to |
| <input type="checkbox"/> sow • | • to be unable to find |
| <input type="checkbox"/> wash away • | • to arrive at |

We watched as the bomb (1: _____) in a second into a million of pieces of ice and rock that (2: _____) harmlessly in our atmosphere and (3: _____) the sky for an hour. Still, we were left with the devastation of the first. The waters (4: _____) as far inland as the Ohio and Tennessee valleys. It (5: _____) farms and towns, forests and skyscrapers. But the water (6: _____). The wave (7: _____) Europe and Africa, too. Millions were (8: _____). Countless more left homeless. But waters (9: _____). Cities (10: _____). But they are rebuilt. And heroes die. But they are remembered. We (11: _____) them with every brick we (12: _____) with every field we (13: _____) with every child we (14: _____). And then teach to (15: _____) in what we have been regiven. Our planet, our home so now. Let us begin.

Do you like this movie? strongly disagree ← 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 → strongly agree

Your comments: _____

を変化させることが求められるので他の品詞と比較するとややレベルが高い。名詞でも英文定義の提示は単数でも実際に聞こえてくるのは複数である場合などが想定できる。英文で定義文を与えれば必然的に原形のもを提示せざるを得ないため学習負担が重くなる。回避するには、英文定義の代わりに和訳を提示することが考えられる。

3-2-2-9. 英文の書き取り (dictation)

英文を書き取る作業は伝統的な手法であるが、洋画に限らず、ニュースなどにも有効であり、その有益性は以下の記述からも明らかだ。

書き取りは英語の学習活動のうち単に書くことの領域だけの技術だけではなく、そのほか聞く・話す・読むの全領域にわたる技能の総括的な学習活動とみなされているので、英語の授業においては不可欠なものであり、その実施方法・内容・程度などについては指導手順上かなりの考慮が払われてよいと考えられる。(小川他、1982:149)

全領域にわたる技能的な学習活動の内容に関しては、Gower & Walters (1983:107-108) が以下の5技能がディクテーションには必要であると述べている。

Dictations are far harder than they seem. To do them successfully, students have to be able to:

- identify sounds when run together in connected speech
- understand what they represent in terms of words
- understand and to a certain extent interpret what the words mean when grouped together
- transfer what they hear into the written mode
- write quickly with few spelling mistakes

また、彼らは“*There are also usually severe limitations on the time that can be taken to do these things!*”(pp.107-108) とし、時間を十分与えることの重要性を訴えている。

上記にあるように、これら複数の技能が同時に行使されなければならない

書き取りは、時間と根気を要する作業である。一般的に、書き取りがテストのため場合には、自然な速度、ゆっくりした速度、自然な速度というように読む速度を変えて3度行う。書き取ることで上記の技能を向上させる練習として行う場合には、自然の速度のものをより多く聞かせて書かせるべきである。インタラクションのある対話のような場面でない限り相手に速度を変えて言い返してもらうことは通常あり得ない。むしろ現実では、館内放送など1度しか聞けないような場面もあるはずであり、そうした状況に対応できる実践力を養成するには、あくまでも自然な速度に慣れておく必要がある。以下3つの方法をここで紹介するが、すべて著者が授業で実践しているものである。

1) 短文集中ディクテーション (intensive repetitive dictation)

- (1) 10秒以内の1人の台詞の部分を2、3度字幕なし音声ありの画像を提示して聞かせる。
- (2) 画像提示期間はメモなどはとらないように指示し、聞き取りに専心するように注意する。
- (3) 画像を消して音声のみを聞かせる。また、オーディオテープに録音してものを聞かせる。
- (4) クラスレベルなどに応じて何度か間隔を置いて聞かせ、その間に書き取らせる。
- (5) 途中で1度ペアワークさせ出来具合を比較させる。
- (6) クラスのほぼ全員が書き取れた時点で、2人を指名し板書させる。
- (7) 板書したものを見ながらもう1度音声のみを聞かせ両者を比較しながら修正する。

2) テープ自由操作ディクテーション (independent dictation)

- (1) やや長めの台詞を2、3度字幕なし音声ありの画像を提示して聞かせる。
- (2) 画像提示期間はメモなどはとらないように指示し、聞き取りに専心するように注意する。
- (3) 音声の部分を学生の卓上カセットテープに録音する。または、録音済みテープを配布する。
- (4) 5～10分程度の時間を与え、その間自由に何度もテープを再生

させ書き取らせる。

- (5) 途中で1度ペアワークさせ出来具合を比較させる。
- (6) クラスのほぼ全員が書き取れた時点で、2人を指名し板書してもらう。
- (7) 板書したものを見ながらもう1度音声のみを聞かせ両者を比較しながら修正する。

3) 宿題ディクテーション (assigned dictation)

- (1) 1シーン分、または、それ以上の長さの字幕なし音声ありのカットを1度提示する。
- (2) 音声の部分を学生の卓上カセットテープに録音する。または、録音済みテープを配布する。
- (3) その部分の台詞を全て書き取りを宿題として出す。
- (4) 1週間後や夏休み明けなど期間やレベルに応じて聞き取る量を調整する。
- (5) 男性は俳優の台詞、女性は女優の台詞など分担させてもよい。
- (6) 授業では、宿題の部分の台詞を提示するか印刷してものを配布する。
- (7) 学生各自に台詞を見ながら書き取ったものを赤ペンで添削させる。

以上の方法はどれかをひとつに固執せず組み合わせるとよい。2)については卓上カセットレコーダーが全席についているLL施設の使用が必要である。少なくとも1)については毎回の授業で行うようにしたい。3)もできれば毎回、または休み前の宿題として多めに与えることも考えられる。注意点としては、書き取らせる台詞の選択については、語彙や構文など、その日のレッスンの焦点になるような重要項目を含んだものを選び、それらを強化する手段として行うことが望ましい。

3-2-3. 統合モデル (integrated model listening activities)

Table 5 は、Richards のリスニングモデル (Table 3 参照) に、これまで紹介してきた音声認識のためにタスクのいずれかの要素を加味し、さらに、字幕翻訳、脚本作成の要素を結合させた統合モデルである。全体を10ステップ

TABLE 5 洋画を活用した英語授業の統合モデル

Pre-Viewing Activities**STEP 1: INTRODUCTION**

背景や制作に関する基本的情報に触れながら、作品の紹介を日本語で行う。

STEP 2: VIEWING FOR SCHEMA BUILDING

提示シーンの前まで時間の許す限り日本語字幕付きのカットを見せる。

STEP 3: VOCABULARY PREVIEW

1分程度の提示シーンで使用される重要語句のうち内容理解のタスクのヒントになり過ぎない程度ものを紹介する。この際それぞれの語彙項目には英文の定義文をつけておき、和訳させる。

Viewing Activities**STEP 4: 1ST VIEWING**

- (1) おおまかな内容に関する質問をひとつ提示し、聞き方のコツなどを指示する。
- (2) 字幕なし音声ありのカットを提示し、聞き取りながら質問の答えを探すよう指示する。
- (3) 終了後ペアワークで答え合わせをさせた後、1人をあて口頭で答えさせる。

STEP 5: 2ND VIEWING

- (1) 多義選択問題をひとつ提示し、聞き方のコツなどを指示する。
- (2) 字幕なし音声ありのカットを提示し、聞き取りながら質問の答えを探すよう指示する。
- (3) 終了後ペアワークで答え合わせをさせた後、1人をあて口頭で答えさせる。

STEP 6: 3RD VIEWING

- (1) 内容真偽問題を2、3提示し、聞き方のコツなどを指示する。
- (2) 字幕なし音声ありのカットを提示し、聞き取りながら質問の答えを探すよう指示する。
- (3) 終了後ペアワークで答え合わせをさせた後、1人をあて口頭で答えさせる。

STEP 7: PERCEPTION TASK

- (1) 音声認識に関するタスクの説明を行う。
- (2) 画像を消して音声のみを聞かせる。
- (3) 終了後ペアワークで答え合わせをさせた後、1人をあて口頭で答えさせる。

Post-Viewing Activities**STEP 8: SCRIPT VIEW**

- (1) 提示シーンの語彙項目、構文等について総合的な解説を行う。
- (2) 英文字幕付き音声ありのカットを1度提示し確認させる。
- (3) 質疑応答を行う。

STEP 9: MAKING SUBTITLES

- (1) 提示シーンの各台詞の翻訳作業を行う。字数制限をあらかじめ明記しておく。
- (2) 10分の時間を与え、その後ペアワークまたはグループワークで吟味し合う。
- (3) 日英両語の字幕付きカットを止めながら1、2度提示し各自比較させる。
- (4) 1人指名して、字幕なしカットを音声なしで提示しながら音読してもらう。

STEP 10: WRITING A DIALOGUE

- (1) 提示シーンの台詞の中から重要語句をひとつ選び解説する。
- (2) 対話作成シートに必要事項を記入させ、重要語句を含む対話シーンを作らせる。
- (3) ペアワークでフィードバックを与え合うように指示する。
- (4) 1人指名して板書させ、解説を加えながらプレゼンテーションをさせる。
- (5) 板書したダイアローグを学生全員の前で解説を加えながら公開添削する。
- (6) 全ての学生のダイアローグ作成シートを回収し、添削して次回返却する。

に分け組み立てているが、全部で1分ほどのカットを7度見ることになる。リスニング活動は、一般的に pre-listening activities、listening activities、post-listening activities の3段階に分けられるが、同様に洋画を活用した授業には、pre-viewing activities、viewing activities、post-viewing activities がある。この統合モデルでは、ステップ1～3が pre-viewing activities に、ステップ4～7までが viewing activities に、ステップ8～10が post-viewing activities に相当する。Figure 17 と Figure 18 は、この統合モデルを実践した授業の際に学生に配布するハンドアウトの実物であり、それぞれ対話と独話を教材として使用したものである。クラスのレベルを考慮して、解説が必要と思われる語彙項目については、画像・音声提示後に選んで説明するが、難解と思われる語句については教師の判断により先に提示前に紹介してから終りに他の語彙項目と共に再び紹介することも考えられる。

3-2-3-1. Pre-Viewing activities

読解活動においては、pre-reading activities の中に語彙解説を入れたり、絵などを使用して内容スキーマ (content schema) を活性化することでトップダウン式の読解力を養成することが常識化しているが、同様に、medium の違いがあるにせよ同じ受信技能であるリスニングにおいても重要である。

Figure 17 の例をとると、Step 1 にあるような洋画の基本的な情報を提示したり、Step 2 で寸前までのカットを見せることが内容や場面を理解するために大切である。また、話し手については登場人物の役について口頭で十分説明しておきたい。

内容のスキーマの活性化は、部分的提示だけではなく全体提示の場合にも行った方がよい場合がある。部分的提示の場合と異なり、全体提示の場合は学習者は作品の終始を把握できるので事前の内容説明は不要と思われるかも知れないが、作品によっては内容が難解であったり複雑な筋の展開をするものもある。学習者が途中で話の筋が追えなくなり興味を失い注意力が散漫になってしまわないようにするには作品によっては、やや詳しい内容に触れた

方がよい場合もある。口頭で筋書きを伝えたり、批評などする他に、以下のようにインターネットの映画資料サイト (us.imdb.com/) で公開されている要約文 (summary plot) を活用して空欄穴埋めなどのタスクをさせながら紹介する方法が考えられる。この空欄穴埋めタスクでは、作品の内容を知らなくても、この文章のコンテクスだけで選択できるような空欄の作成をすべきである。

FIGURE 16 内容スキーマ活性化のためのタスクシート

Before watching the film, fill in the blanks from the list of words below to complete the plot summary for the film.

Will Shakespeare's (1: _____) is going badly. His love life is a shambles, he's always short of (2: _____), and worst of all, he has writer's block. He's supposed to be nearly finished his newest (3: _____), "Romeo and Ethel the Sea Pirate's Daughter", but in fact he hasn't written a (4: _____). At a sham audition for the play, he admires a new (5: _____), Thomas Kent, who suddenly runs away. Soon Shakespeare meets Viola de Lesseps, who lives in the same stately home as Thomas; it's love at first (6: _____) and he's inspired to begin writing the play. But by the time he realizes that Thomas is Viola in (7: _____), she's promised in marriage to a lord which means that Queen Elizabeth herself expects the marriage to happen. But Will and Viola find their attraction too strong to (8: _____); they risk the wrath of her fiance with a clandestine affair, and of the law (9: _____) women on stage by having "Thomas" play Romeo. No wonder he ends up changing the play into a (10: _____)...

actor/against/disguise/life/line/money/play/resist/sight/tragedy

Richards のリスニングモデルでは、語彙項目の紹介は最後に行うことになっているが、内容スキーマを活性化するためにも、また洋画の作品については場面によっては文脈からも推測できない、または口語表現や俗語のような難解な語彙項目が含まれることが少なくないので、事前に提示した方が適切であると判断する。Step 3 で語彙を多少作業させて紹介することにした。ただし、語彙によっては内容の根幹にかかわるキーワードなどについてはその後の内容理解のためのタスクが著しく制限されてしまうこともあるので選択には注意を払わなければならない。Figure 17 の例では、dirt-bags (嫌な奴ら) は始めに説明しておいた方がよいかも知れないが、“hitman”は本文の内

FIGURE 17 対話の統合モデルシート

 Name: _____ (ID _____) Day & Date: _____, _____, 2001
Pre-Viewing Activities**STEP 1: INTRODUCTION**Title: **LEON** (1994, U. S.)

Genre: Crime/Action/Drama/Romance/Thriller

Directed by: Luc Besson

Cast: Jean Reno/Gary Oldman/Natalie Portman/Danny Aiello/Peter Appel

User Rating: 8.4/10 (4183 votes)

Plot Outline: Professional assassin Leon reluctantly takes care of 12-year-old Mathilda, a neighbor whose parents are killed, and teaches her his trade.

STEP 2: VIEWING FOR SCHEMA BUILDING

本日の講義のキー・シーンまでの部分を日本語字幕付きで見てもらいます。内容把握に努め、必要に応じてメモを取ってください。

STEP 3: VOCABULARY PREVIEW

以下の語句の英文定義を参考に和訳を書いてください。

(1) hit man = a hired killer

和訳 _____

(2) dirty-bag = nasty guy

和訳 _____

(3) grand = a thousand dollars

和訳 _____

Viewing Activities**STEP 4: 1ST VIEWING**

Leon と Matilda の対話シーンを字幕なしで 1 度見ながら以下の質問に答えてください。
What does Leon do for a living?

STEP 5: 2ND VIEWING

もう 1 度同じシーンを見ながら以下の質問の答えとして最も適当なもので選んでください。
How much does it cost to ask Leon to kill a person?
(A) 500 dollars (B) 5,000 dollars (C) 50,000 dollars (D) 500,000 dollars

STEP 6: 3RD VIEWING

更にもう 1 度同じシーンを見ながら以下の英文の内容真偽を行ってください。

(1) *Leon kills anyone.* (T/F)(2) *Matilda wants Leon to kill someone.* (T/F)**STEP 7: PERCEPTION TASK**

今度は画像を消して音声のみ聞いてもらいます。空欄に聞き取った語句を入れてください。

Matilda: Leon, what exactly do you do for a l _____?

Leon: Cleaner.

Matilda: You m _____ you're a hitman?

Leon: Yeah.

Matilda: Cool.

Matilda: You clean a _____?

Leon: No women, no kids. That's the r _____.

Matilda: How much would it c _____ to hire someone to get those dirt-bags who

FIGURE 17 つづき

killed my brother ?

Leon: Five grands a h _____.

Matilda. Wow.

Post-Viewing Activities

STEP 8: SCRIPT VIEW

台詞全体について解説するのでよく聞いてください。

STEP 9: MAKING SUBTITLES

「1秒4文字」の法則に従い、指示した字数制限を守り日本語字幕を作ってください。

Matilda: Leon, what exactly do you do for a living ?

_____ (12 語)

Leon: Cleaner. _____ (4)

Matilda: You mean you're a hitman? _____ (8)

Leaon: Yeah. _____ (4)

Matilda: Cool. _____ (4)

Matilda: You clean anyone? (8) _____

Leon: No women, no kids. That's the rule. (10) _____

matilda: How much would it cost to hire someone to get those dirt-bags who killed my brother ? _____ (16)

Leon: Five grands a head. _____ (4)

Matilda. Wow. _____ (4)

STEP 10: WRITING A DIALOGUE

“You mean ?”を使用した対話を完成させてください。

- 1) **Relation** friend & friend/student & teacher/ _____ & _____
- 2) **Occasion** casual conversation/asking directions/service encounter/ _____
- 3) **Channel** face-to-face conversation/telephone conversation/ _____
- 4) **Sex** A: male/female B: male/female
- 5) **Age** A: _____ years old. B: _____ years old.
- 6) **Name** A: _____ B: _____
- 7) **Place** Country _____ Region _____ Specific Place _____
- 8) **Time** Day _____ Month _____ Date ____ Time ____ a. m./p. m.
- 9) **Weather** _____

A: _____

B: _____

A: _____

B: _____

A: _____

B: _____

A: _____

FIGURE 18 独話の統合モデルシート

 Name: _____ (ID _____) Day & Date: _____, _____, 2001

Pre-Viewing Activities**STEP 1: INTRODUCTION**

Title: **ARMAGEDDON** (1998)
 Directed by: Michael Bay
 Genre: Action/Sci-Fi/Thriller
 User Rating: 5.8/10 (12495 votes) W/3/29/00
 Cast: Bruce Willis/Billy Bob Thornton/Ben Affleck/Liv Tyler
 Plot Outline: When an asteroid the size of Texas is headed for Earth the world's best deep core drilling team is sent to nuke the rock from the inside.

STEP 2: VIEWING FOR SCHEMA BUILDING

本日の講義のキー・シーンまでの部分を日本語字幕付きで見てもらいます。内容把握に努め、必要に応じてメモを取ってください。

STEP 3: VOCABULARY PREVIEW

以下の語句の英文定義を参考に和訳を書いてください。

- | | | |
|----------------|-----------------------------------|----------|
| (1) roam | =wander | 和訳 _____ |
| (2) lush | =luxurious | 和訳 _____ |
| (3) fertile | =producing abundant crops | 和訳 _____ |
| (4) planet | =a body moving around a star | 和訳 _____ |
| (5) hurtle | =move rapidly | 和訳 _____ |
| (6) atmosphere | =air | 和訳 _____ |
| (7) penetrate | =see through; find access through | 和訳 _____ |

Viewing Activities**STEP 4: 1ST VIEWING**

ARMAGEDDON の冒頭のシーンを字幕なしで見ながら以下の質問に答えてください。
What happened to the Earth?

STEP 5: 2ND VIEWING

もう1度同じシーンを見ながら以下の質問の答えとして最も適当なもので選んでください。
How long was the sun powerless?
 (A) six years (B) 100,000 years (C) 1,000 years (D) unknown

STEP 6: 3RD VIEWING

さらにもう1度同じシーンを見ながら以下の英文の内容真偽を行ってください。
 (1) *When the rock hit the Earth, dinosaurs were already dead. (T/F)*
 (2) *The sun became powerless after the hit. (T/F)*
 (3) *A rock could hit the Earth again because it happened before. (T/F)*

STEP 7: PERCEPTION TASK

今度は画像を消して音声のみ聞いて台詞と違う6箇所を指摘し訂正してください。
 This is the earth at the time when the dinosaurs roamed a lush and fertile planet.
 A piece of rock just six miles changed all that. It hit with the force of 100,000
 nuclear weapons. A trillion tons of dirt and rock hurtled into the atmosphere.

FIGURE 18 つづき

creating a suffocating blanket of **dirt**. The sun was **powerful** to penetrate for **a thousand** years. It happened before. It will happen again. It's just a question of **how**.

Post-Viewing Activities

STEP 8: SCRIPT VIEW

台詞全体について解説するのでよく聞いてください。

STEP 9: MAKING SUBTITLES

「1秒4文字」の法則に従い、指示した字数制限を守り日本語字幕を作ってください。

This is the earth at a time when the dinosaurs roamed a lush and fertile planet. _____ (16語)

A piece of rock just six miles changed all that. _____ (12)

It hit with the force of 100,000 nuclear weapons. _____ (12)

A trillion tons of dirt and rock hurtled into the atmosphere, creating a suffocating blanket of dirt. _____ (20)

The sun was powerless to penetrate for a thousand years. _____ (12)

It happened before. It will happen again. It's just a question of when. _____ (16)

STEP 10: WRITING A DIALOGUE

“It's just a question of”を使用した対話を完成させてください。

- 1) **Relation** friend & friend/student & teacher/ _____ & _____
- 2) **Occasion** casual conversation/asking directions/service encounter/ _____
- 3) **Channel** face-to-face conversation/telephone conversation/ _____
- 4) **Sex** A: male/female B: male/female
- 5) **Age** A: _____ years old. B: _____ years old.
- 6) **Name** A: _____ B: _____
- 7) **Place** Country _____ Region _____ Specific Place _____
- 8) **Time** Day _____ Month _____ Date _____ Time _____ a.m./p.m.
- 9) **Weather** _____

A: _____

B: _____

A: _____

B: _____

A: _____

B: _____

A: _____

容理解のヒントになり過ぎるのでステップ8で提示した方がよいと考える。

以上は、トップダウン式のリスニング力を養成する方法であるが、日常生活でもある突然の知らせなど何の心構えも背景知識もないものを理解しなければならない場面もあるので、提示するカットから全情報を汲み取らせるボトムアップ方式のリスニング活動をさせることも忘れてはならない。それには学習者には一切の作品に関する内容も場面の役柄も説明せず、最初から該当シーンを字幕なしの音声ありの数十秒のカットを何度も提示し、適当なタイミングをみて、ペアワークまたはグループワークで確認させ、また提示しては確認させる方法がある。

3-2-3-2. Viewing activities

Step 4、5、6 は内容理解のためのタスクである。記憶に負担をかけずに1度のリスニングでひとつの事項に集中して聞かせるためにはやはり簡潔な質問にした方がよいだろう。Step 4 では、細部に関する情報を問うが選択肢を提示することで内容スキーマを活性化させる一助にもなっている。選択肢を周知して聞けばトップダウン的な聞き方になるのである。Step 5 ではおおまかな内容の理解に努めるように質問の内容も大筋を問う内容にする。Step 6 は細部に関することであるが、特定の情報ではなく事実の認否でありより高度な判断が求められる。

Richards のリスニングモデルの手順には、音声認識のタスクが一切含まれていない。それは原則のなかの原則3 (Purposefulness and transferability) に従えば、空欄穴埋めのようなタスクは非現実的であるとみなされているためである。しかしながら、音声認識のためのタスクはやはり音声の聞き取りの訓練には不可欠であると著者は信じる。また、音声認識のタスクのために台詞全体が配布シートに書かれているために、全文を解説するのに都合がよい。よって、Step 7 に本稿で紹介した音声認識タスクのいずれかを行うことが適切であると判断する。Figure 17 では空欄穴埋め、Figure 18 では相違箇所¹⁾の修正であるが、これは対話には前者のタスク、独話には後者のタスクを

用いるべきということではない。対話独話の性質でタスクを選択するのではなく、あくまでも使用シーンのコンテクストや語彙の難易度に応じて柔軟に選択すべきである。さらに、時間の余裕があれば先程紹介したディクテーションを取り入れることもできる。

3-2-3-3. Post-Viewing activities

リスニング活動の本編が終了したら、提示された言語材料の学習を強化し、補足し、記憶の保持を高めるために追加的な活動が望まれる。視覚的学習者の多い日本語母語話者は特に視覚的な補足演習がリスニング活動でも不可欠である。それには学習したシーンの台詞全文を提示する必要があり、解答した後の音声認識タスクの部分がそのまま活用できる。

まずは、Step 8 では、提示シーンの語彙項目、構文等について総合的な解説をていねいに行う必要がある。また、英文字幕付き音声ありのカットを1度提示し確認させることも大切である。ここで学生からの質疑にも答えテキストを完全に理解させるようにしたい。さらに、全文の解説後に字幕なしのカットをもう1度見せてもよい。

また、リスニング活動を超えて他の技能を高めるタスクに移行することが可能である。日本語字幕作成シュミレーション授業を実践している角山(1995:19-20)は、その教育的効用を以下のように報告している。

- 1) 映画をただ楽しむだけではなく英語学習に積極的に活用しようという態度を育てることができる。
- 2) 翻訳するにあたって日本語の表現力を磨くことの重要性を認識させることができる。
- 3) 字数制限があることで、直訳にこだわり過ぎず全体で何が一番大切なメッセージなのかすばやく掴む訓練になる。
- 4) 日本語字幕に過度に依存しない積極的な学習態度を身につけることができる。

受信になりがちなりスニング活動を中心とした洋画の活用法を超えて、「創

作」の要素を学習過程に組み込んでいる点が斬新であり、参考になる報告である。同氏は以下のように授業を進めている。

- 1) CC 信号入り映画のある部分を学生に視聴させる。日本語字幕入りビデオをしようする場合も演習課題として使う箇所(1分程度の場面)では、デコーダーの日本語マスキング機能により日本語字幕を隠して見えないようにする。
- 2) 学生は、配布されたりストによりそれぞれの台詞の翻訳に使える字数を割り出し、日本語字幕を作成する。(字幕作成に割り当てる時間は10分以内とした)
- 3) 教師は学生に自分が作成した日本語字幕を発表させ、必要に応じて構文、語彙、文化背景などの説明を加える。
- 4) 日本語字幕を出した状態で、ビデオの課題の箇所をもう1度流し、自分たちの作成した字幕と比較してみる。

この授業計画では字幕作成が授業の中心となっているので、Step 9では、このままの手順では活用できない。1)の部分はそれまでに何度もシーンの提示があるので省略できる。2)の部分は字数の制限をあらかじめハンドアウト上に記入しておく方が時間が節約できる。また、字数制限があることで学生は日本語自体の表現力の訓練にもなると思われる。この時間と字数の関係は、清水(1992:65)の1秒4文字という「スーパー字幕の文法」に基づいている。3)は1人でも多くの学生に発表の機会があるようにペアワークまたはグループワークで照らし合わせた後で、1人選んで板書させクラス全体で吟味する形式がよいだろう。構文、語彙、文化背景などは前の段階で済んでいるので省略できるが、翻訳を吟味しコメントする段階に必要な事項については再度触れるとよいだろう。4)の段階では、日本語字幕または日英両語が提示されたカットを提示する。また、時間の余裕があれば、さらに字幕のないカットを音声を消して提示しながら作成した翻訳文を声優になったつもりで音読してもらうことも可能であろう。

また、Step 10ではライティングへ移行している。この段階では、扱ったシーンの中から重要語や表現を選定し、以前紹介したダイアログ作成の演

習を行うようにしたい。課題として出すことが基本であるが、時間の許す限り授業時間内で作成させ、また2、3人に板書させ公開添削し、他の学生の分は授業内に回収していねいに添削し次回の授業で返却するようにしたい。このタスクでは、コンテスクを学習者自らが創造し、全英語力を駆使して1シーンを書き上げることで発信技能を高めるだけでなく、英語学習への大きな動機づけにもなることが期待される。

4. CONCLUSION

洋画にはさまざまな語学教育上またはSLA(第二言語習得)上の恩恵があるわけだが、一般の教材と比較してより効果的であるということが実証されなければならない。2000年3月に、カナダのバンクーバー市で開催された第34回TESOL世界大会に著者は教科書分析のグループ発表のために参加したが、洋画の効用に関する発表のひとつにやや否定的な報告があったので紹介したい。それは、英語を母語としない学生で一般の英語授業を履修したグループと洋画を中心の授業と受講したグループでは、一般の学生の英語力の方がやや上回っているという主旨の発表であった。ただし、そのテスト法の詳細と妥当性についてはやや疑問視しなければならない点もあった。ただ救われるのは、それぞれのグループの中で普段教室外で洋画をよく鑑賞している学生としていない学生を比較してみると、よく鑑賞している学生の方が大きく向上しているという点である。このことが示しているのは、教室外での自発的なインプットがSLAには極めて重要であるかという点である。

教室内の限られた時間では、とうてい十分なインプットを与えることは困難である。他の技能と同様に自主的な教室外での連携がなくてはならないのである。ゆえに、洋画を活用したリスニング活動は、教室内においては受講生の教室外での数倍から数十倍の目標言語の自発的インプットを促す内容であるべきである。そのため教室内での教授法がそのまま個人の学習で実行できることが理想である。本稿で紹介した全体提示での音声認識などは、その

まま映画館や家庭でのビデオを再生する時でも、メモ片手に実行できる。作品批評についてもシートをたくさんコピーしておき、毎度書き込む習慣を身に付けさせるべきである。また、事前にインターネットで情報や脚本を入手する方法を授業内で示したり、さらに進めれば本稿で紹介した聞き取りシートを作成させることも考えられる。

教室外での自主的なリスニングの取り組みを強調することは、教室内での指導法の改善や発展に消極的であってもよいということではない。教授法の開発は進められるべきであるが、それは学習者1人でもできそうな独学 (independent learning) と表裏一体の性質のものである方が望ましい。むしろ、「教授法から学習法への応用」ではなく、教師自らが洋画を活用して学習していく中から教室での活動に応用できるものを見出す「学習法から教授法への応用」が本来あるべきアプローチかも知れない。教室内ではペアワークなど複数の学習者がいた方が学習が促進される側面はあるものの、授業の最終目標は教室外で自立できる学習者 (independent learner) を養成することである。洋画を活用したリスニング活動はその可能性を引き出してくれる有力候補となり得るのではなかろうか。

NOTES

- 1) 本稿は、平成12年6月に北海道大学で行われた大学英語教育学会 (JACET) 北海道支部年次大会において発表した内容を発展させたものである。当日は、音声認識のタスクを中心にビデオを提示したため、内容理解のためのタスクが不十分であるとの指摘があったので、その点を十分考慮に入れ執筆した。
- 2) foreigner talk 母語話者が非母語話者と話す時に意識的、無意識的に相手に分かりやすくするために、語彙的、統語的、音声的な調節を行う話し方のこと。
- 3) 洋画のジャンルには、Action/Adventure/Children's/Comedy/Crime/Drama/Fantasy/Mystery/Romance/Science Fiction/War などがある。
- 4) 「ビジネス英語」「医学英語」「薬学英語」「工業英語」など特定の discourse community をターゲットとした英語教育のアプローチのこと。
- 5) WALL STREET (1987) (邦題：ウォール街) ウォール街を舞台に、証券マンの夢と野望を描いた作品。監督・脚本は、オリバー・ストーン。1988年、マイケル・ダグラスがアカデミー主演男優賞受賞。
- 6) THE ELEPHANT MAN (1980) 19世紀のロンドンで奇病に苦しむ青年と彼を研究する外科医との触れ合いを描いた作品。監督・脚本は、デイヴィッド・

リンチ。

- 7) THE CURE (邦題：マイフレンド・フォーエヴァー) 輸血が原因でエイズに感染した 11 歳の少年と近所に住む少年との友情と冒険を描いた作品。
- 8) 通例 4 字からなる卑わいな語やタブー語のこと。
- 9) *拙著「ネイティヴが話す [英単語・イディオム・決まり文句]」語研
**拙著「ネイティヴがよく使う [英単語・イディオム・決まり文句]」語研
- 10) この解決法については、小林 (1999) が紹介しているように、のちの述べるクローズド・キャプションシステム対応のビデオソフトを一端プレーヤーに入れてキャプションの背景に黒い幕が現れるようにデコーダーを設定し、台詞のないシーンでデコーダーをオンのままにして一端ビデオを止めて取り出し、任意のビデオを入れて再生すれば黒い幕で日本語の字幕は隠されたままの状態になる。
- 11) 小樽商科大学にある著者担当研究指導「洋画談話分析 (DAFE: Discourse Analysis of Films in English)」
- 12) 人物表現の形容詞リスト拙書「和英人物表現データベース」ジャパンタイムズ社より抜粋。

REFERENCES

- Blundell, L. and J. Stokes. (1981). *Task Listening*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Gower, R.S. Walters. (1983). *Teaching Practice Handbook: A reference book for EFL teachers in training*. Oxford: Heinemann.
- Hirose, K. (1997). The effects of using movies on learners' motivation for learning English. *ATEM Bulletin, No.3*, 50-61.
- Kadoyama, T. (1995). Use of closed caption and simulated movie translation. *ATEM Bulletin, No.1*, 13-21.
- Kikuchi, S. (1996). A study of the effects of an English-captioned movie on rapid reading and listening comprehension. *ATEM Bulletin, No.2*, 34-43.
- Kikuchi, S. (1998). A preliminary study of key-word English captions. *ATEM Bulletin, No.4*, 3-13.
- Kobayashi, T. (1996). Response to Japanese college EFL learners' difficulties in SLA. *Hokkai Gakuen Jinbun Ronshu, No.7*, 119-195.

- Kobayashi, T. (1999). Teaching English through movies with closed caption system. *Otaru University of Commerce, Language Studies, No. 7*, 21-40.
- Kobayashi, T. (2000). Features and typology of Japanese subtitles in films in English. *Otaru University of Commerce, The Review of Liberal Arts, No.100*, 27-82.
- Obari, H. (1996). A cross-sectional study of effectiveness on listening comprehension of the use of Japanese subtitled and English captioned videos. *ATEM Bulletin, No.2*. 11-22.
- Ogawa, Y. (1982). *Sanseido's Dictionary of English Language Teaching: New Edition*. Tokyo: Sanseido.
- Paulston, B. (1971). The sequencing of structural pattern drills. *TESOL Quarterly 5*, 197-208.
- Richards, J. (1987). Listening comprehension: approach, design, procedure. In M. Long & J. Richards (Eds), *Methodology in TESOL: A Book of Readings*, 161-176. New York: Newbury House Publishers.
- 清水俊二 (1992). 『英語字幕は翻訳ではない』東京：早川書房
- Uchimura, O. (1994). *Junior High School English Grammar from Movie Dialogue*. Nagoya: Screenplay Publishing Co., Ltd.
- Ur, P. (1984). *Teaching Listening Comprehension*. Cambridge: Cambridge University Press.

DATA

- TOEFL Practice Tests Workbook Volume 2*. (1997). Princeton: Educational Testing Service.

APPENDIX I Richards(1987 : 167-169)が示すリスニング技能の構成要素**Micro-Skills: Conversational Listening**

1. Ability to retain chunks of language of different lengths for short periods
2. Ability to discriminate among the distinctive sounds of the target language
3. Ability to recognize the stress patterns of words
4. Ability to recognize the rhythmic structure of English
5. Ability to recognize the functions of stress and intonation to signal the information structure of utterances
6. Ability to identify words in stressed and unstressed positions
7. Ability to recognize reduced forms of words
8. Ability to distinguish words boundaries
9. Ability to recognize typical word order pattern in the target language
10. Ability to recognize vocabulary used in core conversational topics
11. Ability to detect key words (i. e., those which identify topics and propositions)
12. Ability to guess the meanings of words from the contexts in which they occur
13. Ability to recognize grammatical word classes (parts of speech)
14. Ability to recognize major syntactic patterns and devices
15. Ability to recognize cohesive devices in spoken discourse
16. Ability to recognize elliptical forms of grammatical units and sentences
17. Ability to detect sentence constituents
18. Ability to distinguish between major and minor constituents
19. Ability to detect meanings expressed in differing grammatical forms/sentence types (i.e., that a particular meaning may be expressed in different ways)
20. Ability to recognize the communicative functions of utterances, according to situations, participants, goals
21. Ability to reconstruct or infer situations, goals, participants, goals
22. Ability to use real world knowledge and experience to work out purposes, goals, settings, procedures
23. Ability to predict outcomes from events described
24. Ability to infer links and connections between events
25. Ability to deduce causes and effects from events
26. Ability to distinguish between literal and implied meanings
27. Ability to identify and reconstruct topics and coherent structure from ongoing discourse involving two or more speakers
28. Ability to recognize markers of coherence in discourse, and to detect such relations, as main idea, supporting idea, given information, new information, generalization, exemplification
29. Ability to process speech at different rates
30. Ability to process speech containing pauses, errors, corrections
31. Ability to make use of facial, paralinguistic, and other clues to work out meanings
32. Ability to adjust listening strategies to different kinds of listener purposes or goals
33. Ability to signal comprehension or lack of comprehension, verbally and non-verbally

APPENDIX II Richards(1987 : 167-169)が示すリスニング技能の構成要素

Micro-Skills: Academic Listening (Listening to Lectures)

1. Ability to identify purpose and scope of lecture
2. Ability to identify topic of lecture and follow topic development
3. Ability to identify relationships among units within discourse (e.g., major ideas, generalizations, hypotheses, supporting ideas, examples)
4. Ability to identify role of discourse markers in signaling structure of a lecture (e.g., conjunctions, adverbs, gambits, routines)
5. Ability to infer relationships (e.g., cause, effect, conclusion)
6. Ability to recognize key lexical items related to subject/topic
7. Ability to deduce meanings of words from context
8. Ability to recognize markers of cohesion
9. Ability to recognize function of intonation to signal information structure (e.g., pitch, volume, pace, key)
10. Ability to detect attitude of speaker toward subject matter
11. Ability to follow different modes of lecturing: spoken, audio, audio-visual
12. Ability to follow lecture despite differences in accent and speed
13. Familiarity with different styles of lecturing: formal, conversational, read, unplanned
14. Familiarity with different registers: written versus colloquial
15. Ability to recognize irrelevant matter: jokes, digressions, meanderings
16. Ability to recognize functions of non-verbal cues as markers of emphasis and attitude
17. Knowledge of classroom conventions (e.g., turn taking, clarification requests)
18. Ability to recognize instructional/learner tasks (e.g., warnings, suggestions, recommendations, advice, instructions)

APPENDIX III 提出用対話文作成シート

Writing a Dialogue !

DATE : _____, _____, 2001 (曜日・月・日の順で)
 NAME : _____ (I. D. _____)
 DEPARTMENT : E/C/L/M/T/auditor/observer
 SEMINAR (or planned) : _____ Seminar (_____) (専門の内容)
 ENGLISH CERTIFICATE: TOEFL _____ TOEIC _____ STEP _____
 CLUB ACTIVITIES : _____
 No. of missed classes : 0 or _____ times (これまでの欠席回数合計)

Write a dialogue with the following word or phrase.

_____ (page _____)

Information of the participants

- 1) **Relation** friend & friend/student & teacher/stranger & stranger/ _____ & _____
- 2) **Occasion** casual conversation/asking directions/service encounter/ _____
- 3) **Channel** face-to-face conversation/telephone conversation/ _____
- 4) **Sex** A: male/female B: male/female
- 5) **Age** A: _____ years old. B: _____ years old.
- 6) **Name** A: _____ B: _____
- 7) **Place** Country _____ Region _____ Specific Place _____
- 8) **Time** Day _____ Month _____ Date _____ Time _____ a.m./p.m.
- 9) **Weather** _____

A: _____

B: _____

A: _____

B: _____

A: _____

B: _____

MESSAGE

APPENDIX IV 人物表現のための形容詞リスト

abnormal	accommodating	active	admirable	advanced
ageless	aggressive	all-around	allergic	amazing
ambitious	amusing	angry	antagonistic	apathetic
approachable	arrogant	astigmatic	athletic	attractive
authoritative	average	avid	bad-natured	bald
bald-headed	banevolent	barbaric	bashful	beautiful
biased	big	bland	blond	boastful
bored	bored-minded	boring	bossy	bow-legged
brave	bright	brilliant	bristly	budget-conscious
bushy	businesslike	calculating	calm	candid
capable	capricious	careful	careless	cautious
charismatic	cheerful	choosy	chubby	clean
clever	clumsy	cold-blooded	cold-hearted	comfortable
comical	compatible	competent	competitive	conceited
condescending	conscientious	conservative	considerate	convincing
cool	cooperative	coordinated	courageous	crafty
crazy	creative	creepy	critical	cruel
cultured	cunning	curious	curly-haired	cute
damaged	dangerous	decent	dedicated	deep
delicate	demanding	dependable	depressed	depressing
difficult	diligent	diplomatic	disabled	disgusting
dishonest	disorderly	distinctive	distorted	dull
dumb	easygoing	economical	eerie	efficient
egomaniac	egotistical	elegant	emotional	energetic
entertaining	enthusiastic	evasive	evil	excited
experienced	expressionless	expressive	extrovert	extravagant
fair	fair-skinned	family-oriented	famous	fashionable
fast	fastidious	fastidious	fat	feisty
feminine	fickle	fine	firm	flat-chested
flawless	flexible	fluent	forceful	forgetful
frank	friendly	frightening	fun-loving	funny
fussy	generous	gentle	gloomy	good
good-looking	good-natured	grateful	greased-back	great
greedy	gross	gutless	hairy	handicapped
handsome	happy	hard	hard-headed	hard-working
harsh	hard-working	healthy	heartless	helpful
helpless	hesitant	high-strung	honest	hopeless
horny	hot-blooded	hot-tempered	humane	humble
humorous	hypocritical	husky	hyper	hyperactive
ignorant	illiterate	ill-mannered	imaginative	impartial
impolite	impudent	inarticulate	incapable	incompetent
inconsiderate	inconspicuous	indecisive	independent	indirect
industrious	inefficient	inexperienced	inferior	inflexible
influential	inquisitive	insane	intellectual	intelligent

intense	interesting	intimidating	introverted	intuitive
irresponsible	irritating	jealous	kind	kinky
knowledgeable	laid-back	large-boned	lavish	law-abiding
lazy	left-handed	lenient	levelheaded	light-skinned
literate	lively	local	logical	long-lasting
long-legged	loose	lucky	mad	manly
mascular	masculine	materialistic	mature	mean
meek	messy	meticulous	middle-sized	mild-mannered
mischievous	miserable	modest	money-hungry	moody
moon-faced	muscular	impulsive	narrow-minded	nasty
naive	neat	nervous	neurotic	nice
noisy	non-competitive	obnoxious	obsessive	obsessed
offensive	oily	old-fashioned	one-track	open-minded
opportunistic	optimistic	orderly	ordinary	oriental
outgoing	outspoken	overconfident	overweight	paranoiac
partial	particular	pathetic	patient	patriotic
peaceful	peace-loving	pedantic	perceptive	perfect
persevering	persistent	personal	persuasive	pessimistic
photogenic	physical	picky	pigeon-chested	pleasant
plump	poker-faced	polite	poor	popular
possessive	powerful	practical	prejudiced	pretentious
pretty	proud	punctual	pushy	quick
quick-tempered	quiet	rational	reasonable	rebellious
refined	relaxed	reliable	religious	repulsive
reserved	respectable	responsible	responsive	restless
rich	ridiculous	right-handed	ripe	romantic
rough	round-faced	round-shouldered	rude	sarcastic
scary	schizophrenic	secretive	selective	self-conscious
selfish	self-sufficient	sensitive	sentimental	serious
sexy	shallow	shameless	sharp	shiny
short	short-tempered	shy	similar	simple-minded
sincere	single	single-minded	skeptical	skillful
skinny	sleepy	slicked-back	slim	sloppy
slow	sluggish	sly	smart	smooth
sociable	soft	soft-spoken	sophisticated	spoiled
spooky	stable	standffish	status-conscious	steady
stiff	stingy	stiraightforward	strange	strict
strong	strong-minded	stuck-up	stupid	sturdy
stylish	surperstitious	suspecious	sweaty	sweet
sympathetic	tactful	talented	tall	terrible
testy	thin	thoughtless	thrifty	timid
tired	touchy	tough	traditional	trendy
trustworthy	unbelievable	unbiased	uncivilized	uncomfortable
undecided	undependable	understanding	uneducated	unfair
unfriendly	ungrateful	unkind	unlucky	unpopular

unpredictable	unprincipled	unrefined	unreliable	unselfish
unsentimental	unsociable	unsophisticated	unstable	untrustworthy
unusual	upset	vague	vengeful	versatile
violent	vulgar	warmhearted	weird	well-bred
well-built	well-coordinated	well-developed	well-educated	well-known
well-mannered	well-proportioned	well-shaped	wild	wise
wishy-washy	worldly	young		